

PRINCIPALITY OF
ZEON



MS-06R-1A ZAKU II


PRINCIPALITY OF ZEON MASS PRODUCTIVE MOBILE SUIT



1/100 scale MASTER GRADE MS-06R ZAKU Ver.2.0



ジオン公国軍
宇宙空間戦闘用高機動型モビルスーツ
MS-06R 黒い三連星ザク Ver.2.0
1/100スケール マスターグレードモデル

MS-06R-1A ZAKU II 



ジオン公国軍
宇宙空間戦闘用高機動型モビルスーツ
MS-06R 黒い三連星ザク Ver.2.0
1/100スケール マスターグレードモデル



ジオン公国MS開発史

モビルスーツ “ザク”

ジオン公国が開発した巨大な人型機動兵器MSは、その出現と同時に既存の兵器体系をことごとく塗り替え、驚異的な適応拡散を達成した。

一年戦争におけるジオン公国軍の主力MS、MS-06 ザクIIは、ほとんど無改造で宇宙でも重力下(地球上)でも運用可能であった。MS-05B ザクI(いわゆる旧ザク)後期型に替わって06Aタイプの量産が始まったのがU.C.(宇宙世紀)0078年1月からのことで、並行して各種のバリエーションも検討された。06Aの量産は比較的早い時期に終了し、生産の中心はC型を経て、より実戦的なF型へと移行していった。もともと、05から06への機種転換自体、機能強化は無論のこと、生産性や整備性を含むトータルな意味での“MS”のスタンダードの確立を企図したものであったことから、MS-06の“工業製品としての歩み”が安定するのF型までかかったのだと見ることもできる。F型の基本設計や生産ラインに手を加えることなく機能強化が施されたMS-06Sは、基本的にMS-06Fの規格内におけるハイエンドバリエーションとして認識されている。操作性を優先したF型に比べ、機動性が大幅に向上したS型だが、その反面かなり扱いにくい機体となってしまった。また、その外観とは裏腹に、内装部品には特殊なものも多く、いわゆる高機動型のR型の機体に移行する寸前の機体であるという事もできる。一説には、R型の開発を見越した部材も試験的に採用されていたと言われていた。更なる高性能機を求めめる声はベテランパイロットを中心に広がっており、技術陣も高性能機の開発を提言していた。首脳陣もまた、その必要性を感じていたのである。

R型ザクはエースパイロットの象徴であった

U.C.0075年5月以降、05系の生産がA型からB型に移行したのも、実際に搭乗するパイロットの要望に応えるためであった。だがしかし、R型の誕生は、いわゆる“イノベーションのジレンマ”そのものでもあったのである。

R型は稼働条件が複雑ではあったが、極めて高性能でもあったためエースパイロットには歓迎された。しかし、製造コスト及び運用コストが高かったせいで、F型のように大量生産されるには至らず、調達に非常に困難であった。ベテランパイロットの間では「連邦軍の戦艦を沈めるよりもR型を手に入れる方が難しい」とまで言われていた。それでも、R-1Aは前線における燃料補給などが簡便なことから多くのパイロットに愛用された。稼働期間が短く、生産数も100機未満と少ないにもかかわらず大きな戦果をあげており、“真紅の稲妻”ジョニー・ライデンや“ソロモンの白狼”シン・マツナガなど「エースパイロットの乗機」として“R型”の機体は広く知られている。

“黒い三連星”として知られるチームは、正式名称を「突撃機動軍第七師団第一MS大隊司令部付き特務小隊」と言う。キシリア・ザビ少将の機刀とも言われ、U.C.0075年にキシリアの発案によって教導機動大隊が創設された時点ですでにMSのパイロット要員として配備されていた。三人がチームを組んだのは、一年戦争勃発の直前とされているが、詳細は不明である。後に発見された資料によると、U.C.0079年1月3日~1月10日の一週間の戦後直後は度々メンバーが変更されており、彼らが軍務においてもチームを組むのは1月15日に勃発するルウム戦役前後と見られている。その時点で彼らは06C型を駆っており、ルウム戦役において「ジェット・ストリーム・アタック」をもって連邦軍の旗艦アナンケを武装解除し、レビル将軍を捕虜とした。その功績で彼らは昇進し、並行して06S型へと乗り換えている。彼らのパーソナルカラーとして知られる黒と紫を基調とした塗装は、この06Sからだというのが最も有力な説とされているが定かではなく、ルウム戦役においては同様の塗装が施された機体が複数展開していたとする資料もあって特定するのは難しい。ちなみに、彼らに配備されたMS-06R-1Aはグラナダの工廠で生産されたもので、他の生産拠点のものとは細部の仕様が異なっていたとされる。

MS-06R-1A



MS-06R-2

MS-06R-1A ザクII 高機動型

生産工程の複雑さに問題があったR型は、同時にラインを見直しクオリティーの向上に繋がるきっかけとなった。

実質的にR型の開発が始まったのは、一年戦争の勃発からおよそ一ヶ月後のことであった。これは、南極条約の締結に伴い、戦争が長期化することが避けられない状況になったためだとされており、宇宙空間における戦力強化の一環として実施されたものであった。MS-06 ザクIIは、当初より高い汎用性の獲得を目標として開発されていたが、その“汎用性を排除して空間戦闘用に特化”した機体がR型なのである。もともとMSは宇宙空間における斬新な機動兵器としての出自を持つため、ある意味で先祖帰りと言えなくもない。ザクIIは、投入環境に対応した改造を施す事で、あらゆる環境に適合することができるよう設計されていた。無論、空間戦闘能力はデフォルトのスペックであったが、機動性の改善を始めたとする改造を施す事によって、宇宙空間での戦闘能力を、より強化させようとしたのである。つまり、地球環境に適応するため、空間戦闘用の装備を排除して重力下での稼働に特化したJ型などは全く逆の発想である。

生産数が多いと言うこともあるが、“ザク”の代名詞でもあるF型は、量産ラインに多少手を加えることでバリエーション機を生み出すことが可能であり、事実、多くの派生型を生み出している。なかでもMS-06R、いわゆる“高機動型ザク”と呼ばれる“R系”の機体は、それまで公国軍の主力機であったF型に代わる空間戦闘能力を持つ機体として開発され、暫時更新される予定でもあったと言われている。R型は、F型をベースとし、主にランドセル、腰部スカート、脚部などを改造することで機能強化が図られたが、最終的には全面的に設計が見直されることとなった。そのため、MS-06R型の初回生産数は22機にとどまり、それらはMS-06R-1として実戦テストを兼ねて各方面へ送られた。戦闘能力そのものに対しては高い評価を得たものの、推進システムの不具合やプロペラントの積載量不足などが指摘された。それを受け、メインスラスターの換装や補助燃料タンクのカートリッジ化などが施された改良型のR-1Aが作られることとなった。R-1Aは56機が生産されたと言われている。また、R-1タイプのうち10機ほどがR-1A仕様で改修されている。

MS-06R-1における初期のいくつかの不具合を修正し、脚部のプロペラントタンクをカートリッジ式としたMS-06R-1Aの生産は、グラナダの工廠や、ジオン本国の各施設で行われた。ただし、生産工程が複雑であったため、それぞれの生産ラインによって調達可能な部材や加工精度にはばらつきが生じ、機体ごとの性能にもムラが生じてしまっていた。結局、MS-06R-1Aの量産は、78機が生産された時点で終了した。本格的な量産に至らなかった理由はいくつか挙げられているが、06R-1Aの量産は、公国のMS生産過程全体のQC(クオリティ・コントロール)を見直す契機ともなった。



MS 開発系譜 -ザクのジレンマ-

ザクの適応能力は、既存の兵器体系をことごとく覆していった。そして、任務や用途に適応した「特殊仕様」、投入環境を限定した「局地戦仕様」、トータルなスペックアップを図る「総合性能向上」など、多様なアプローチによって、あらゆる環境に適応していった。生産設備や基礎的なパーツを流用したままで、かくも多様な用途に投入できる機体を生産できた事は非常に画期的な事であった。しかし、ザクによる成功体験そのものが、次世代機への移行を遅らせる要因となっていたことも否定できない。それは、このR型の開発経緯そのものによって検証されているということもできる。



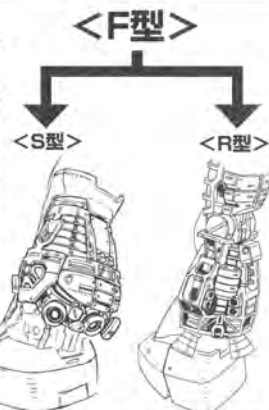
ZEONIC MS-06 Line Development genealogy

脚部スラスター

MS-06 ザクIIは、MS-05 ザクIの運用で得られたノウハウを採り入れた機体であった。具体的には、いわゆる動力パイプの露出などに見られるように、技術発展を見越して各部の換装や更新が可能となるよう配慮されていたのである。なかでも特に背部バックパックと脚部構造は各種パーツがコンポーネント化され、換装や整備に対応している。例えばバックパックを機雷敷設ユニットと換装すれば、そのF型は“メインレイヤー仕様機”となった。R型の最大の特徴は、専用バックパックの換装と脚部の改裝だが、それらはただ単にユニットを換装しただけのものではなかった。既存のF系バリエーションとは異なり、R型の脚部ユニットには大幅な改裝が施されているのである。まず、歩行脚としては最低限の機能のみを残し、大型のパーニアズルをそれぞれ三基ずつ配しているほか、プロペラントタンクを内蔵し、脚部そのものを巨大なベクターノズルとして機能させるのである。さらに、パーニアズラスターの大出力化に伴うプロペラント消費量の増加に対応すべく、大腿部にも大容量のタンクが内蔵されたため、外装形状にも手が増えられた。そのため可動範囲が狭小化したものの、空間戦闘では特に問題となる事は無かったと言われている。

背部スラスター&メインジェネレーター

R型の背部の改造は、メインレイヤーのようにバックパックを換装したのみにとどまらず、上半身の構造自体を見直す事でも、ジェネレーター出力そのものを向上させている。バックパックユニットはプロペラントタンクと大出力のスラスターによって構成されており、上半身の構造物全体を複合スラスターユニットとすることで、既存のMS1機分の推力を確保している。大型化したユニットには補助的なセンサー類なども組み込まれ、高速戦闘に対応している。かくして、バックパックと両脚は、それぞれ既存のF型1機分に相当する推力を持つこととなった。それらを確実に制御するため、各部の関節やアクチュエーターも強化され、その高トルクに耐え得るよう、フレーム強度や機体構造の根本的な見直しを余儀なくされ、コクピット周りの仕様などもF型とは全く別の機体となってしまったのである。このようにR型の開発過程は、一か所に手を加えると連鎖的に問題が発生していったため、その改修点はコクピットユニットの構造や配置にまで及んでいる。最終的にベースとなったF型はほとんど原型を留めておらず、これはすでに改裝やオプション装備といったレベルを超えている。逆に言えば、既存の生産ライン上でこのような機体群を100機近く量産したと言う事実自体、驚異的な事であったと言えるだろう。



注意

必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れてください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

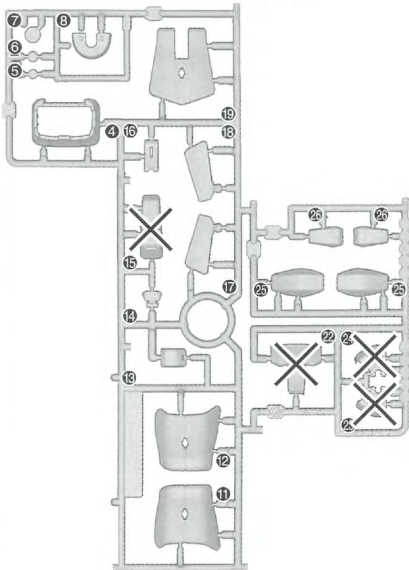
〈組み立てる時の注意〉

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

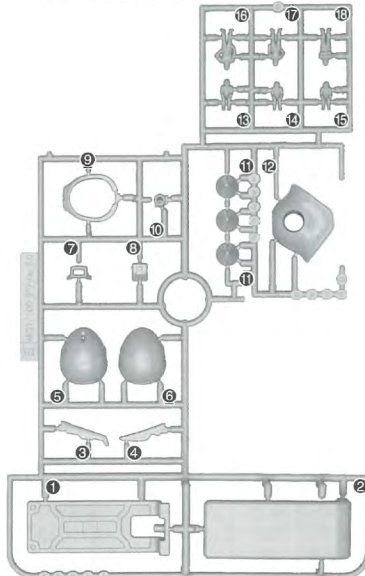
パーツリスト

(X印は使用しないパーツです。)

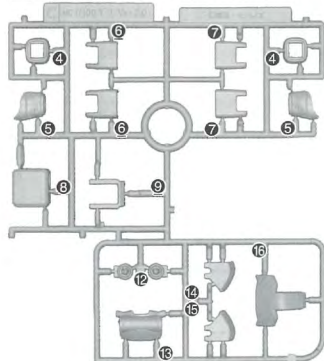
Aパーツ (スチロール樹脂: PS)



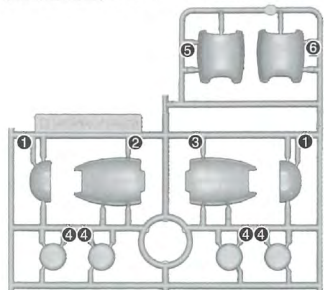
Bパーツ (スチロール樹脂: PS)



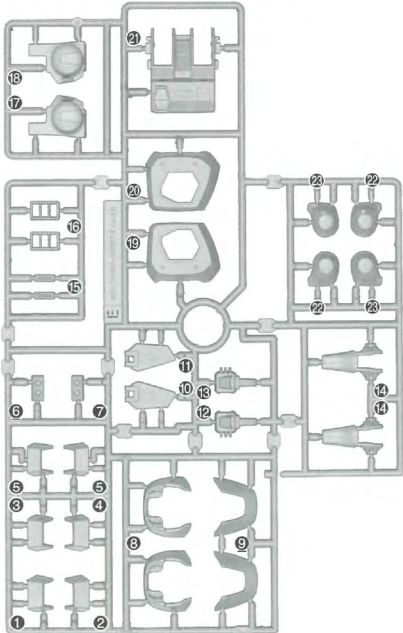
Cパーツ (スチロール樹脂: PS)



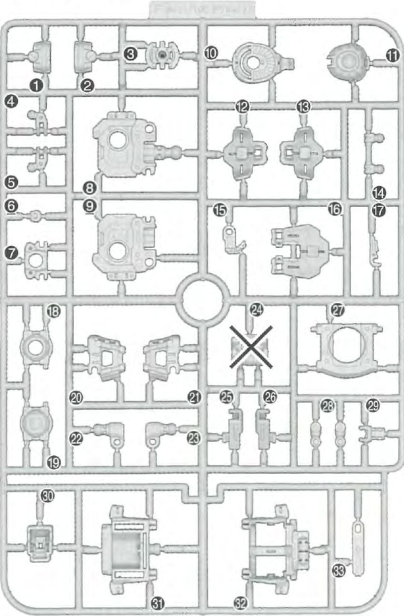
Dパーツ (スチロール樹脂: PS)



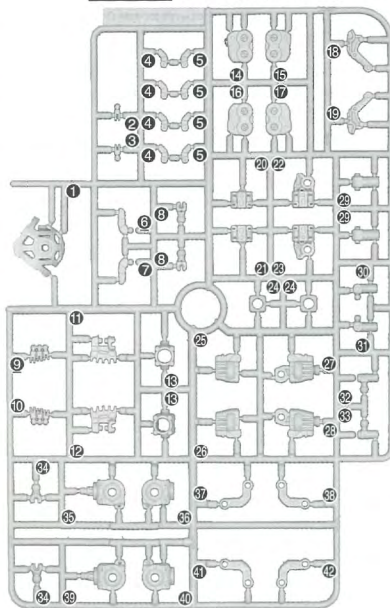
Eパーツ (スチロール樹脂: PS)



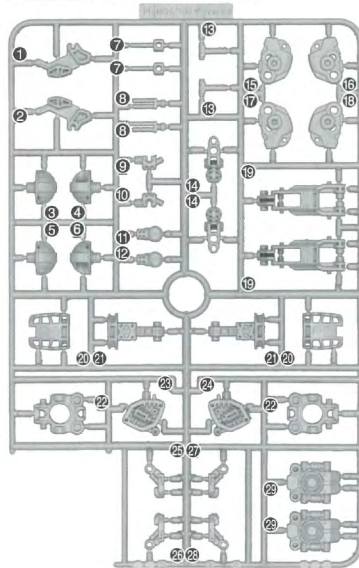
Fパーツ (ABS樹脂: ABS)



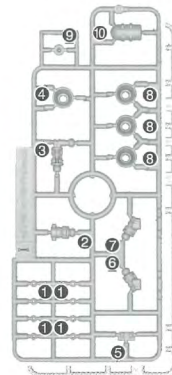
Gパーツ (ABS樹脂: ABS)



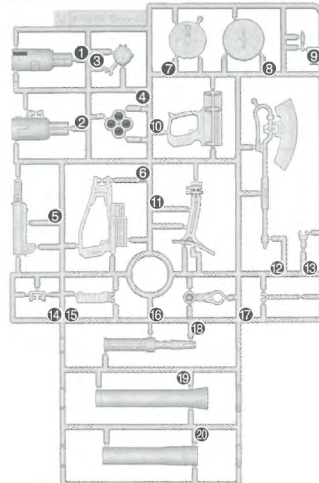
Hパーツ (ABS樹脂: ABS)



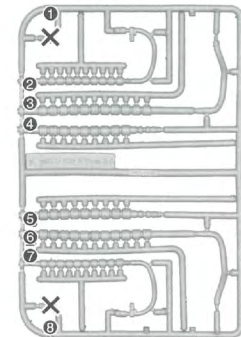
Iパーツ (x2) (スチロール樹脂: PS)



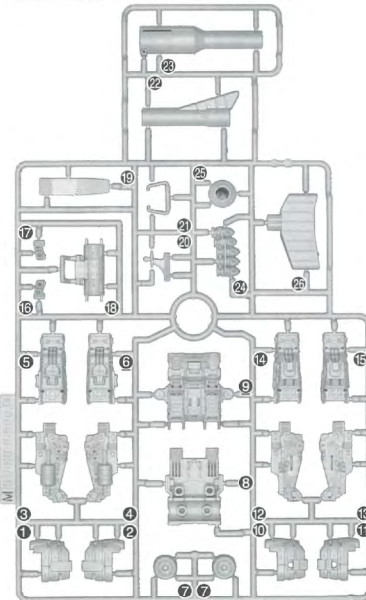
Jパーツ (スチロール樹脂: PS)



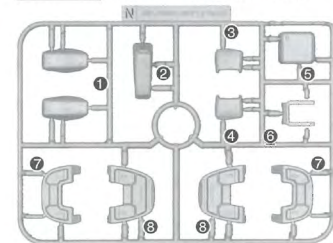
Kパーツ (スチロール樹脂: PS) (ポリエチレン: PE)



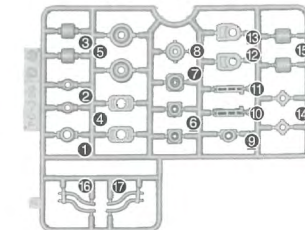
Mパーツ (スチロール樹脂: PS)



Nパーツ (スチロール樹脂: PS)



〈PC-200A〉 (ポリエチレン: PE)

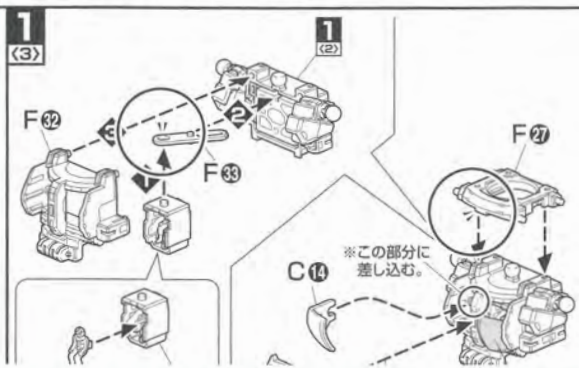


- カラーシール.....1枚
- マーキングシール.....1枚
- ガンダムデカール.....1枚
- パイプスプリング.....2本

組み立て前の基本説明

部品の向きに注意してください

※組み立て図中にVのついている部品は、形状や向きに注意して組み立ててください。



ガンダムデカールの貼りかた

①ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。



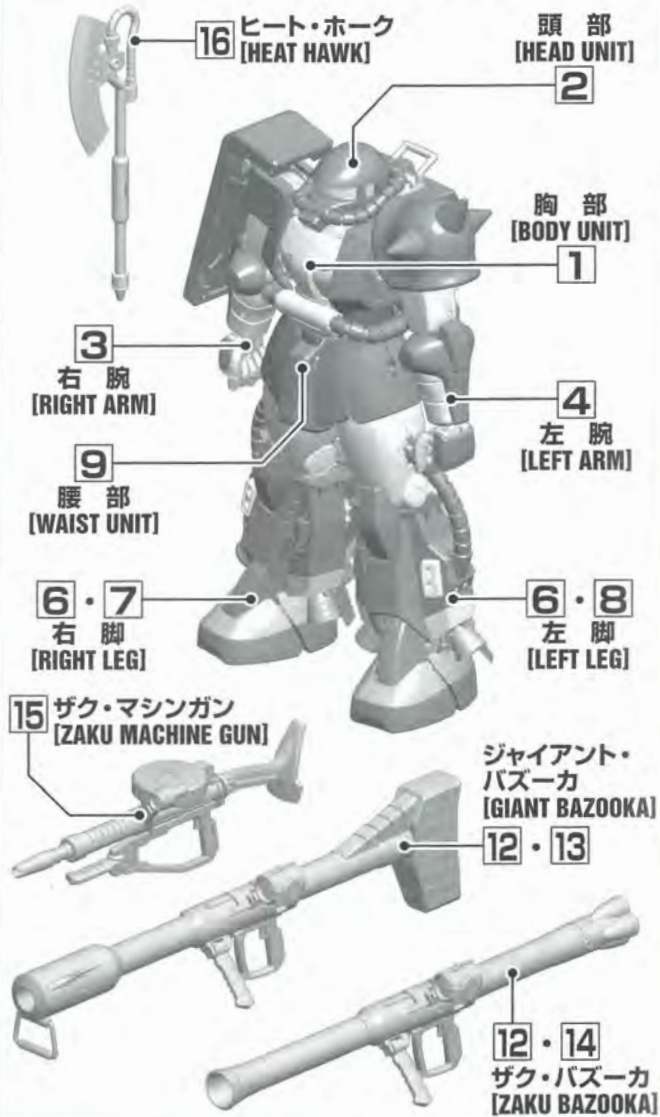
②保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、すれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。



③シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度こすりつけます。

※デカールを貼り間違えた場合は、セロハンテープ等ではがしてください。

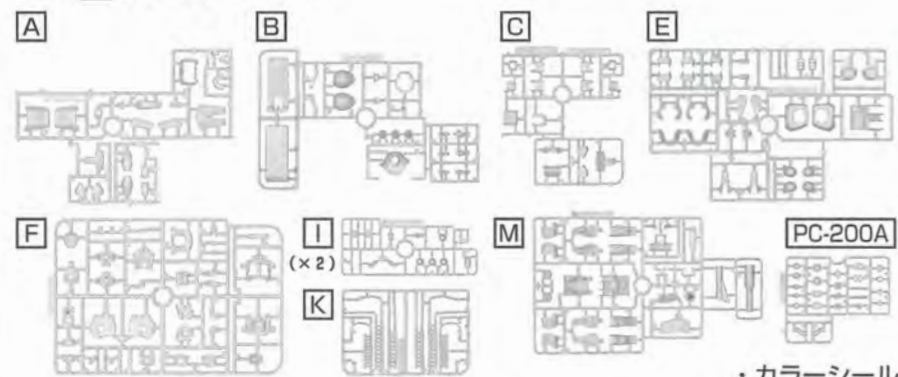
説明書をよく読んで完成させましょう



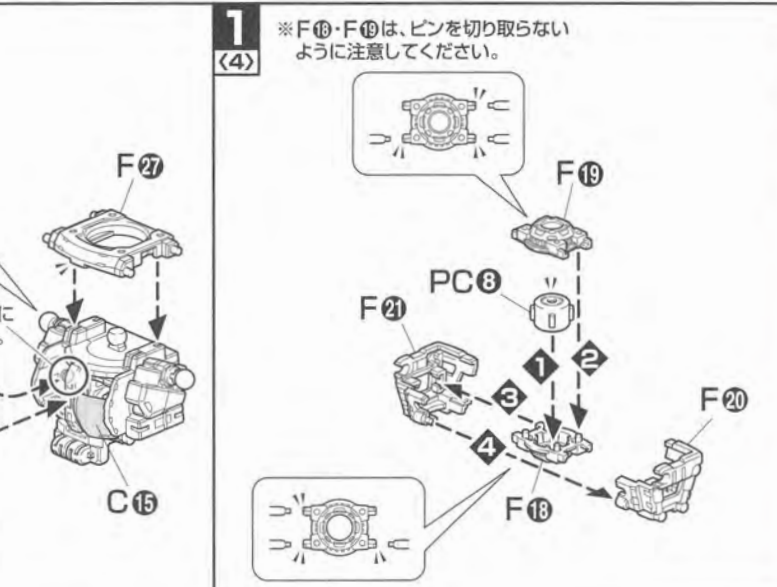
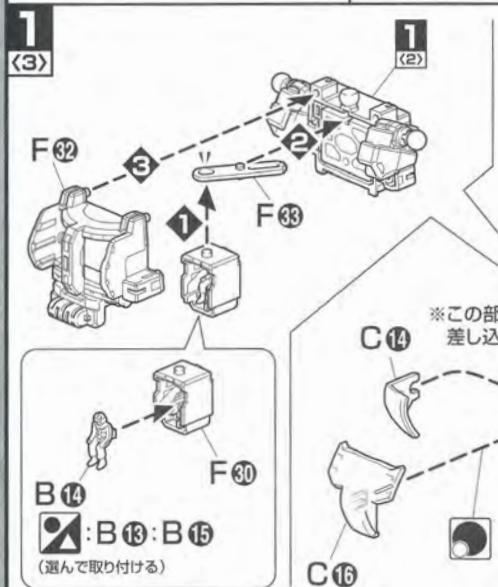
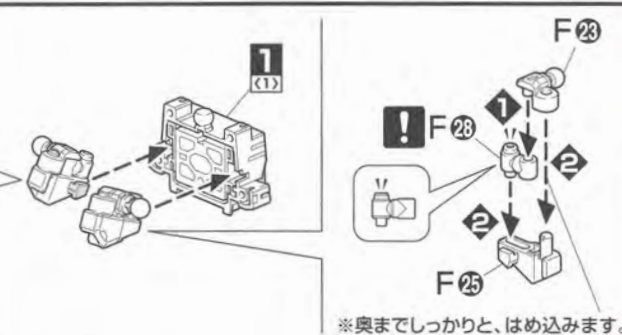
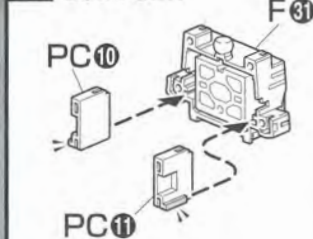
1 BODY UNIT



・組立1で使用使用するパーツ



1 (胸部の組立) BODY UNIT

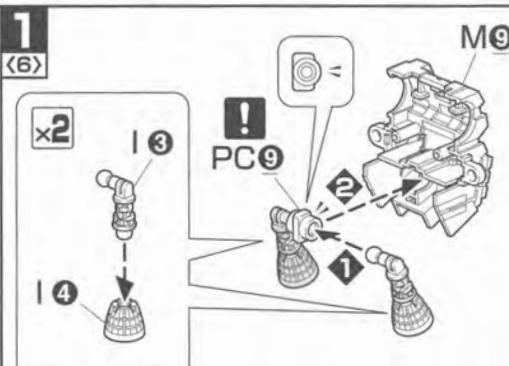
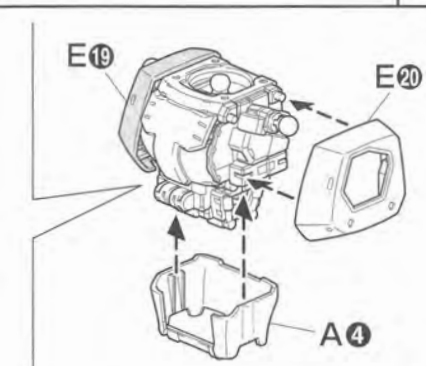
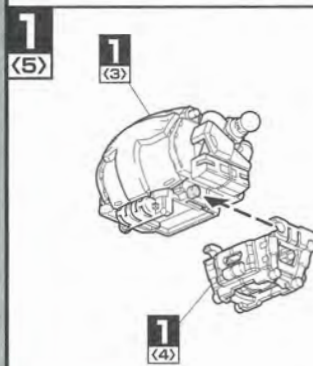
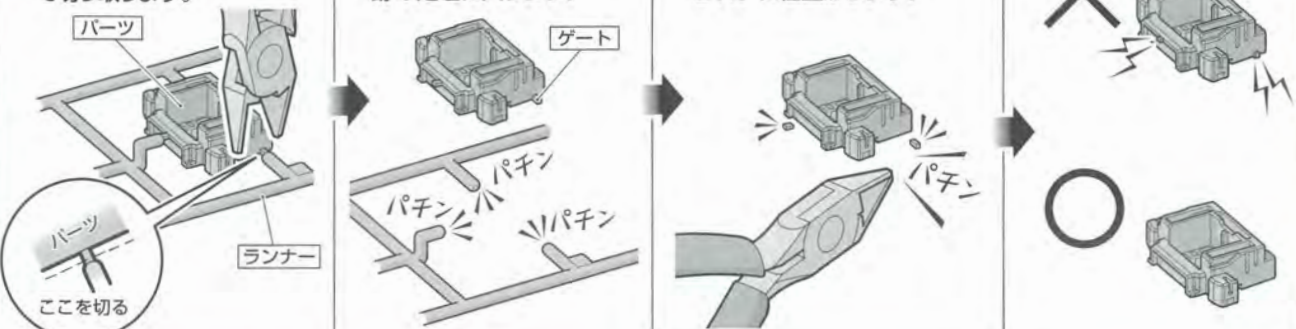


パーツの切り取りかた

①まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて取り切ります。

②パーツを切り離して持ちやすくしたところでゲートの処理に入ります。

③ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。



※組立図中の記号説明
 後から組み立てる
 向きに注意して組み立てる
 x2 部品を数値の個数作ります
 どちらかを選んで取りつける

1 (7)

M8 M10 ! M7 E17 E16 E21

↑ 広い
↓ 狭い

1 (6)

1 (8)

E13 E11 E16 E10 E12 E15

! ※この切り欠きを合わせます。
〈裏側から見た図〉

1 (7) 1 (5)

1 (9)

※K⑩・K⑥は以下の手順で組み立ててください。

K⑩ (K⑥)

※パイプを図の位置まで一個ずつ向きを確認しながら移動します。
(最後に切り取る)

※K⑥も同様に組み立ててください。

1 (10)

1 (9) (K⑥) C12 1 (8)

1 (9) (K③) C12

2

※一つ目のパイプは使用しません。パーツから抜き取ってください。

1 (9) 2

※使用しません。

2 HEAD UNIT

・組立2で使用するパーツ

A B F K PC-200A

・カラーシール
・マーキングシール

2 (1) (頭部の組立) HEAD UNIT

F2 F3 PC1 F1 F6 F10

※F⑥は、ピンを切り取らないように注意してください。

2 (3)

※K②・K⑦は以下の手順で組み立ててください。

1 K② (K⑦)

2 (2)

F11 A8 B9 B10

2

2 3

※パイプを図の位置まで向きを確認しながら一個ずつ移動します。
(最後に切り取る)

※K⑦も同様に組み立ててください。

2 (4)

※左右に注意して組み立ててください。

K2 B8 B3 B4 B6 B7

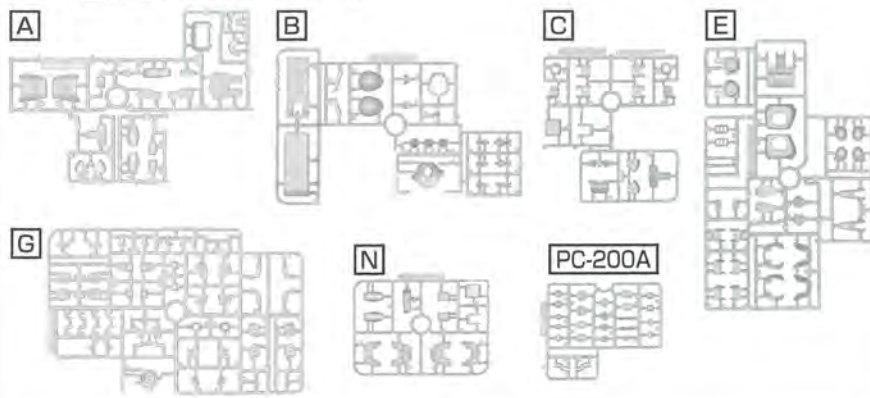
2 (5)

B6 B4 B3 B5

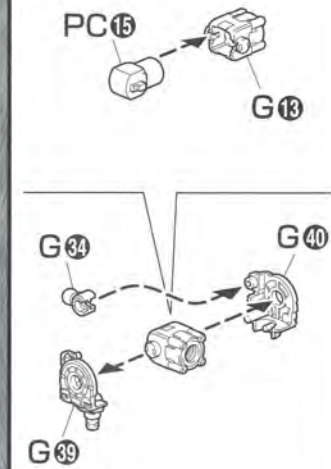
3 4 ARM UNIT



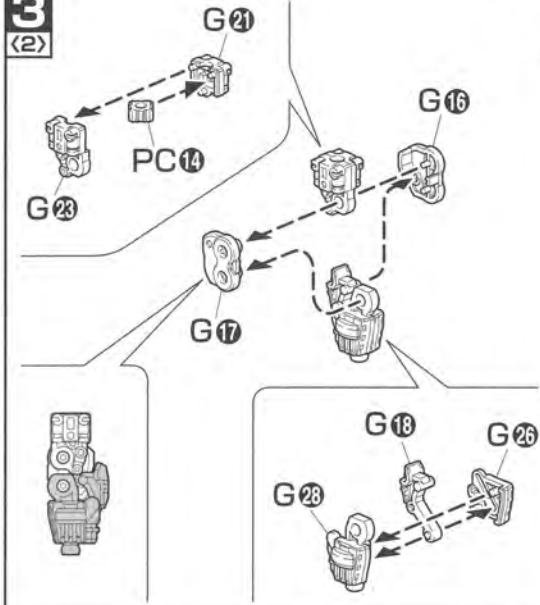
・組立3・4で使用するパーツ



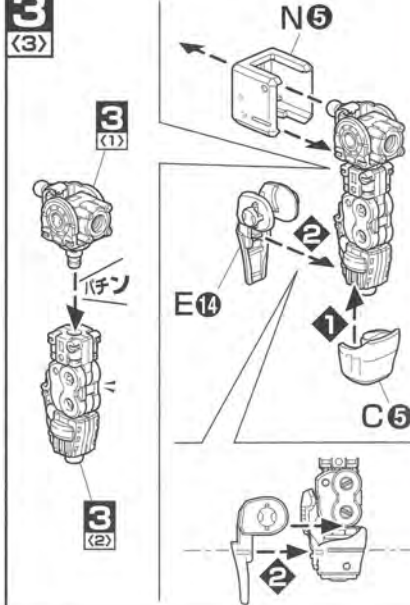
3 (1) 右腕の組立 RIGHT ARM



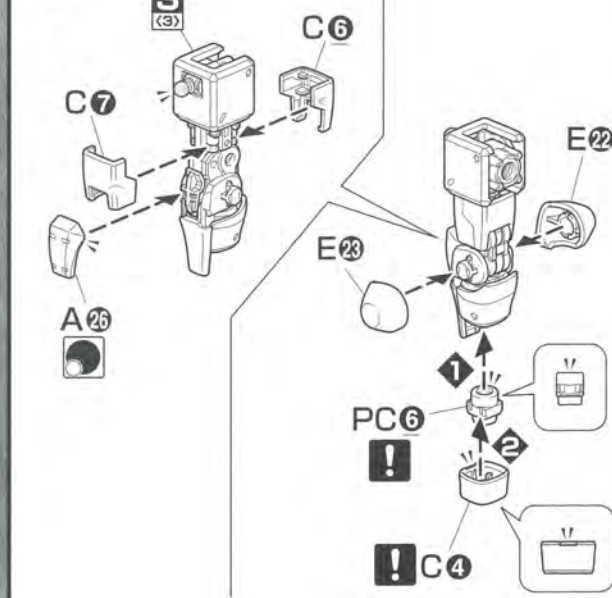
3 (2)



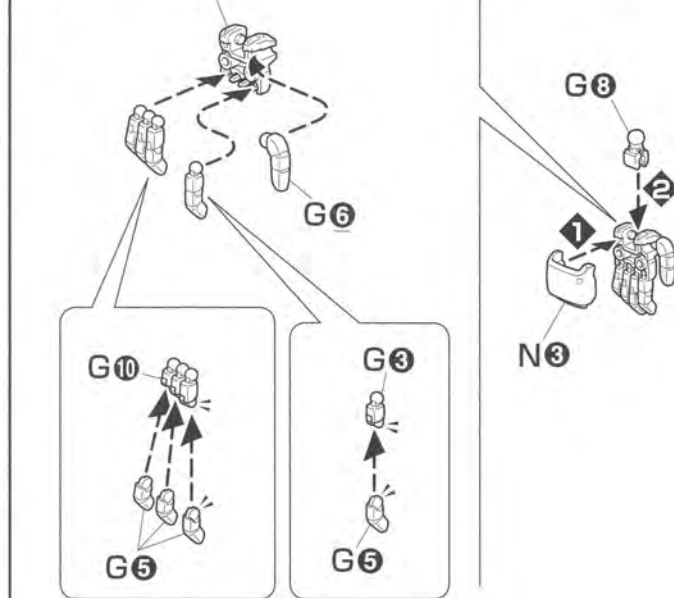
3 (3)



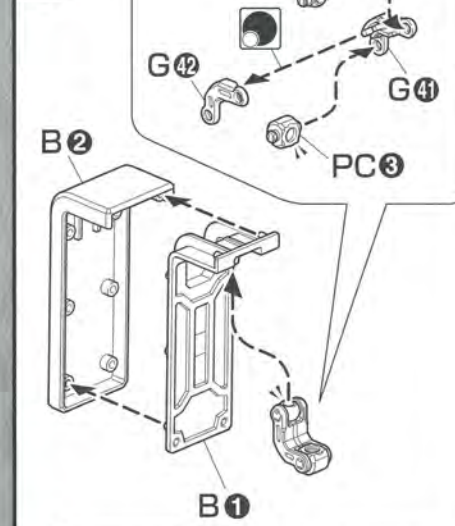
3 (4)



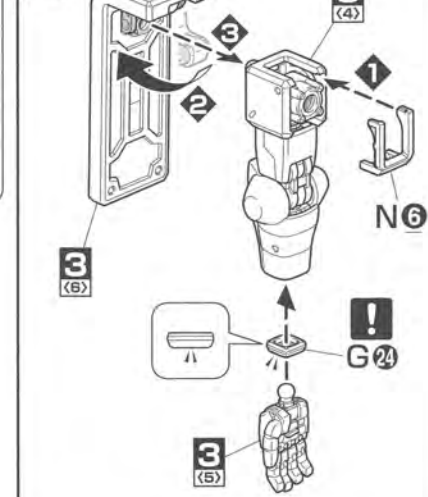
3 (5)



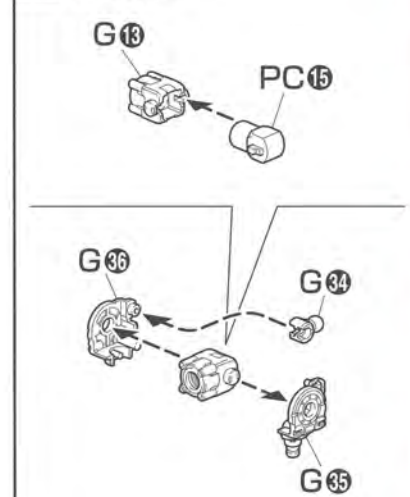
3 (6)



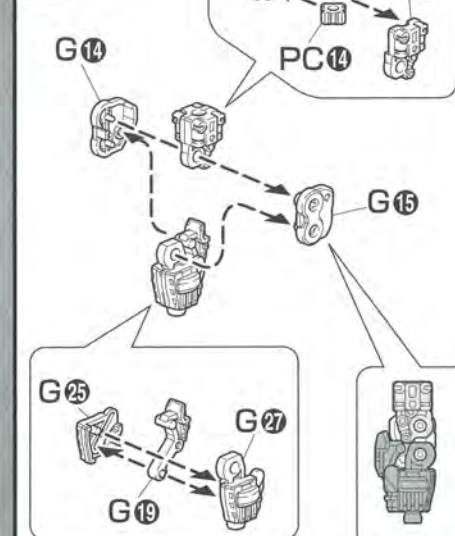
3 (7)



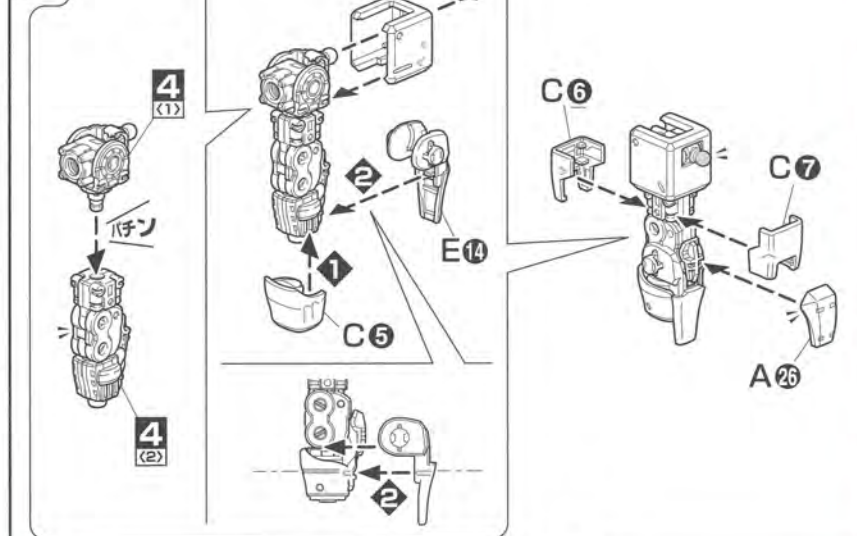
4 (1) 左腕の組立 LEFT ARM



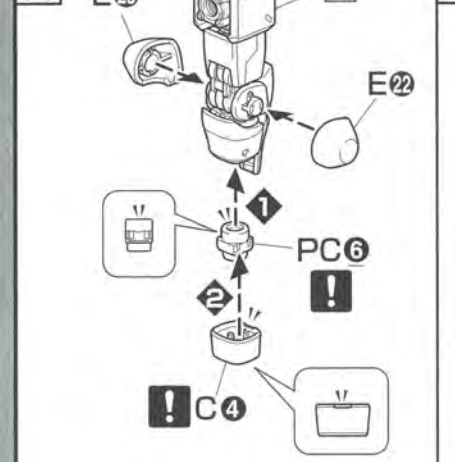
4 (2)



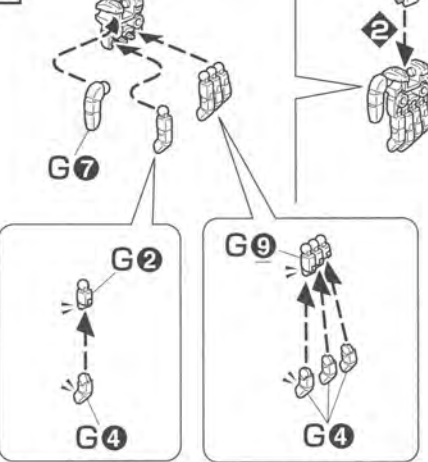
4 (3)



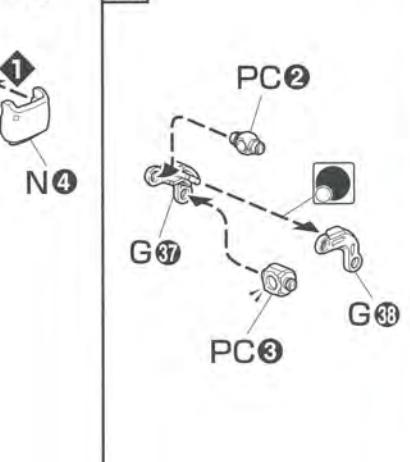
4 (4)



4 (5)



4 (6)



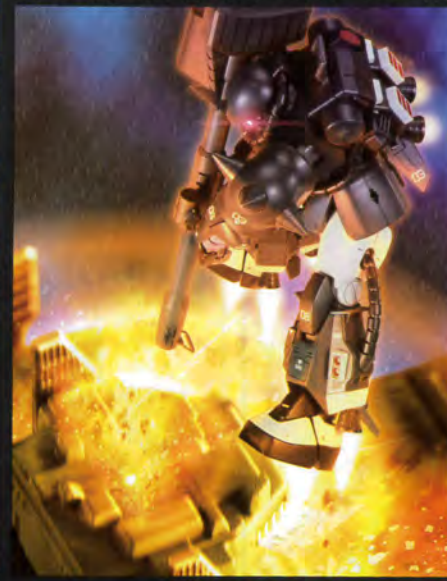
MS Tracks in U.C.0079



Jet Stream Attack (ジェット・ストリーム・アタック)

U.C.0079年10月。グラナダ付近で作戦行動中の連邦軍ルナツー方面軍所属のパトロール艦隊に“黒い三連星”が所属するジオン公国軍のゲリラ部隊が攻撃を仕掛けた。この戦闘で公国軍のゲリラ部隊は、連邦軍のマゼラン級戦艦一隻とサラミス級巡洋艦二隻を大破させ、多数の将兵を捕縛した。このうち二隻までの戦果がガイア大尉を中心とする“黒い三連星”によるものだった。

常に攻撃の先頭に立つガイア大尉は、長距離戦闘を得意とするチームリーダーであり、それぞれが得意とする戦法を組み合わせたチームプレイを指揮するまとめ役である。自ら先駆けて敵機の技量や能力を分析し、有効な戦術を瞬時に判断する。二番手のマッシュ中尉は中距離戦闘を得意とする砲撃の名手であり、三位一体によるコンビネーション攻撃の調整役でもある。傾向



の異なる他の二人の技能を有機的に連携させることで、チームの戦果を確実なものとしている。殿のオルテガ中尉は、白兵戦闘の中でも“肉弾的”な近接戦闘を得意とするMS格闘戦における猛者である。直情径行で猪突猛進型の彼が“とどめ”役の最後衛を務めることで、高速戦闘時における敵機撃破の確実性が高まったといわれている。

彼らの活躍は、ジオン本国でも華々しく喧伝され、戦意発揚に供された。先の戦闘の模様も、後衛の補給機によって記録されたものであった。

MS-06R-1A ZAKU II MECHANISM

推進力の強化、それに耐えるための機体各所の強度の達成は複雑な生産工程と安定した品質が要求された。それはMS-06系の工場全体の生産性の向上に繋がることとなった。

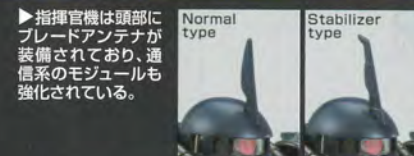


ショルダーアーマーは激突時の衝撃を軽減するためにインナーフレームを内蔵。また、サポートアームが可動し、交換時やシールドとの換装時には容易な着脱が可能である。



空間戦闘能力を向上させるため、バーニアスラスターの性能向上、大口径バーニアノズルとの換装などが行われている。

MODEL NUMBER : MS-06R-1A
Height : 17.5m
Weight : 56.8t
Generator output : 1,012kw
Armor materials : super hard steel alloy



F型から発展したR型のスラスターユニットは、ノズルの大型化やプロペラント・タンクの容量拡大がなされている。

アームユニットは人体に近い可動構造が与えられ、あらゆる武装・状況に対応できるように設計されている。

大腿部は大容量プロペラント・タンクが内蔵され大型化が図られている。

モノコック構造とユニット化されたパーツ構成により、汎用性とメンテナンス性に優れた機体となっている。

PAINTING (塗装)

※よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご確認ください。
※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

MS-06R 黒い三連星ザク Ver.2.0 指定色

- 頭、胸などの塗装色
ネービーブルー (50%) + ブルー (40%)
+ コバルトブルー (10%)
- 太ももなどの塗装色
ホワイト (100%) + ネービーブルー (少量)

- つま先などの塗装色
ブラック (100%)
- ひざ、バーニアなどの塗装色
ミッドナイトブルー (70%)
+ ネービーブルー (30%)
- 胸、腕などの塗装色
ホワイト (70%) + パープル (30%)
+ レッド (少量)
- バーニア内側などの塗装色
モンザレッド (100%)

- 武器などの塗装色
ニュートラルグレー (85%)
+ ブラック (15%)
- ヒート・ホークの塗装色
パープル (55%) + ホワイト (30%)
+ ニュートラルグレー (15%)
- ヒート・ホークのブレードの塗装色
イエロー (60%) + ホワイト (30%)
+ オレンジ (10%)
- モノアイなどの塗装色
蛍光ピンク (100%)

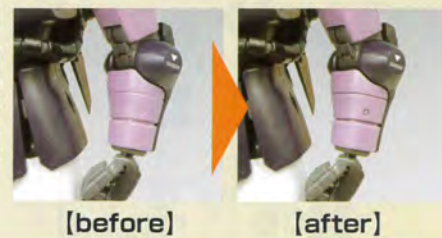
パイロット

- パイロット本体などの塗装色
ミッドナイトブルー (80%)
+ ブラック (10%)
- パイロットA
- パイロットB
- 頭の塗装色
フレッシュ (100%)
- ラインなどの塗装色
イエロー (100%)
- ベルトの塗装色
モンザレッド (100%)
- バイザーの塗装色
スカイブルー (100%)
- 髪などの塗装色
ブラック (50%)
+ ニュートラルグレー (50%)

ワンポイントステップ ~One point step~

スミ入れしてみよう!

ガンダムマーカー/スミ入れ用(別売り)などを使用して、キットのスジ彫りを塗装することで、立体感、リアル感が増します。スミ入れするだけで見違えるような仕上がりになります。

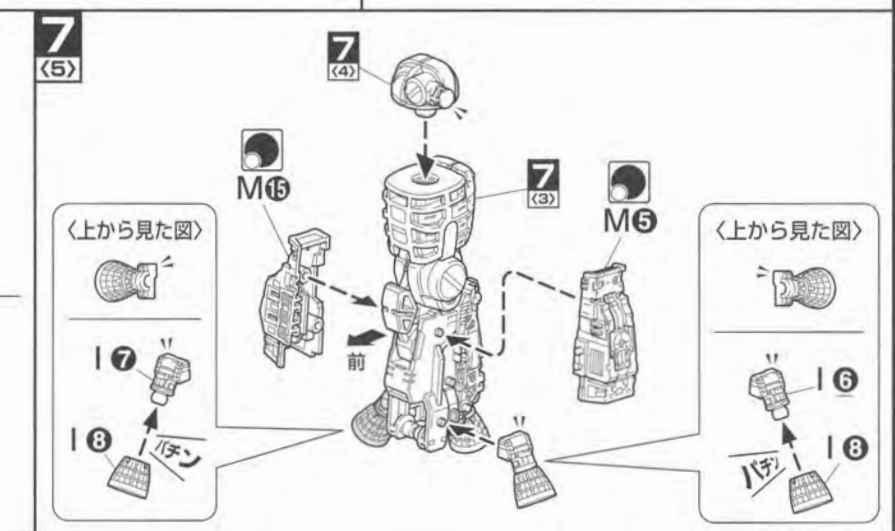
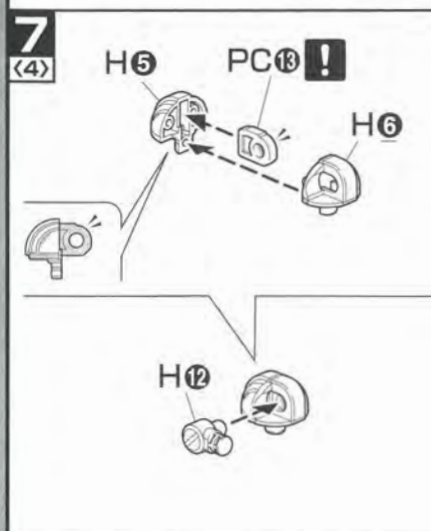
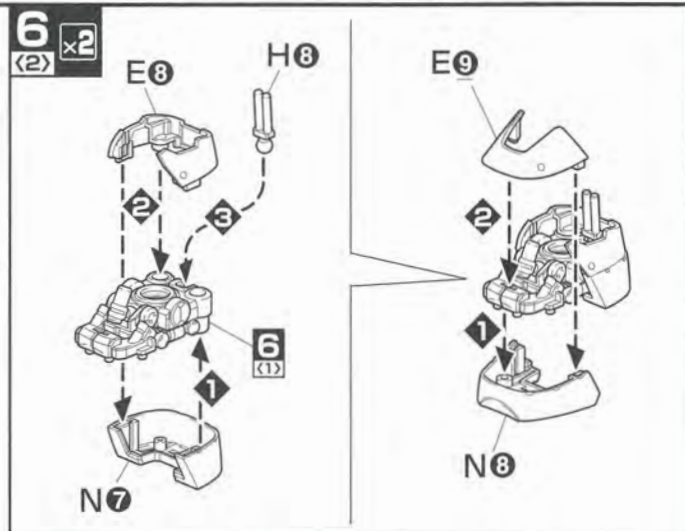
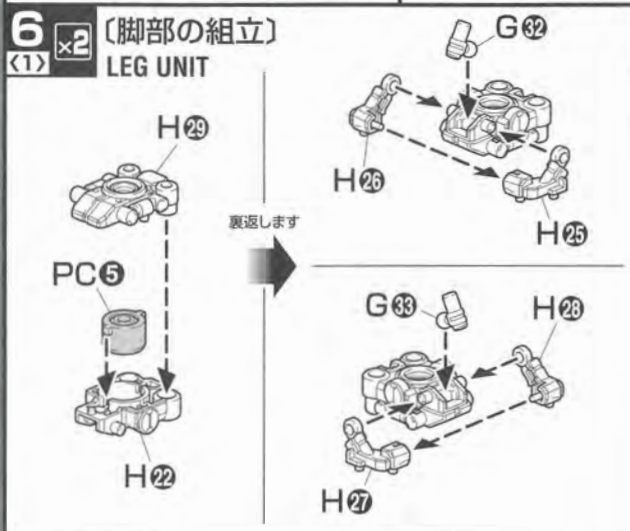
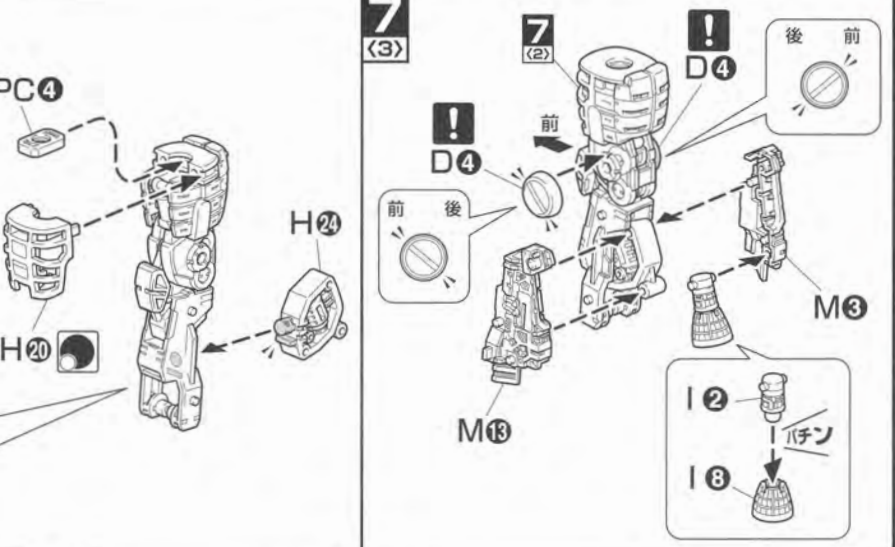
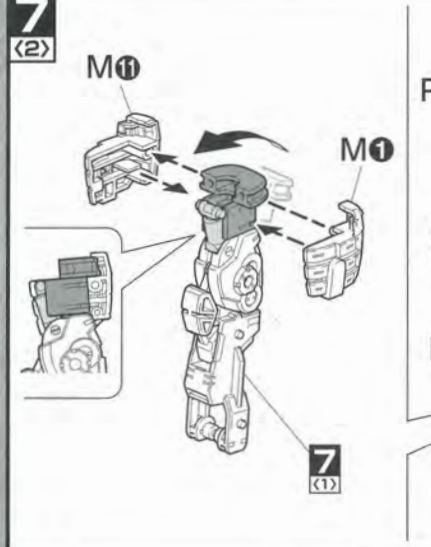
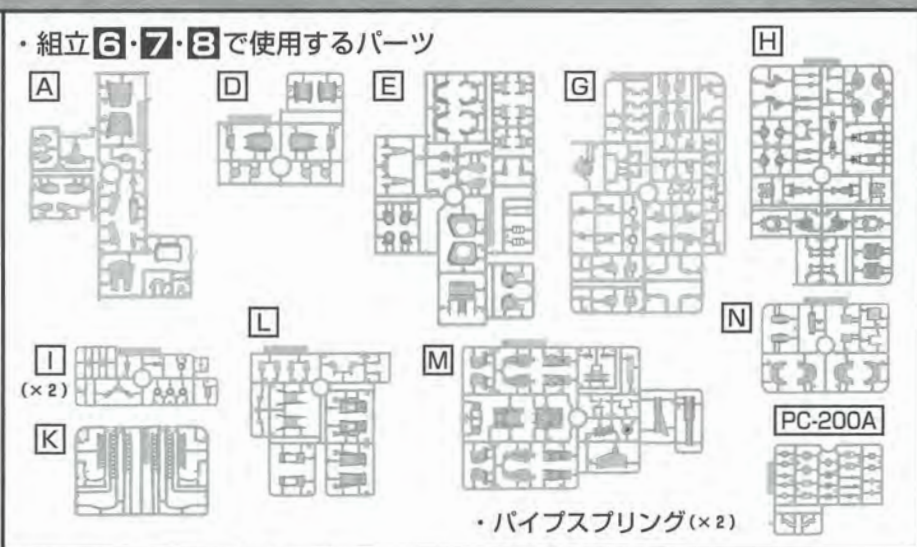
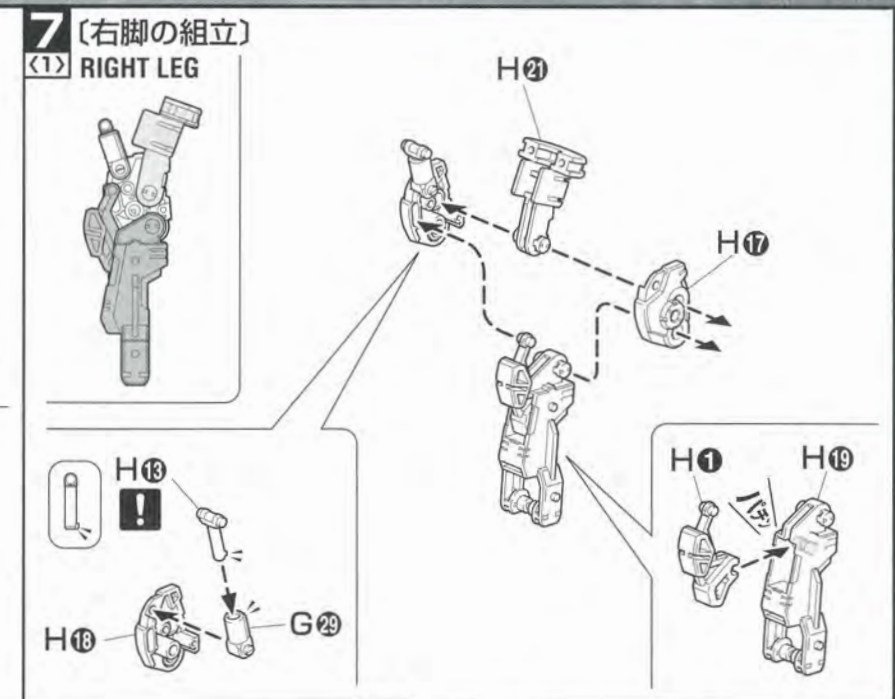
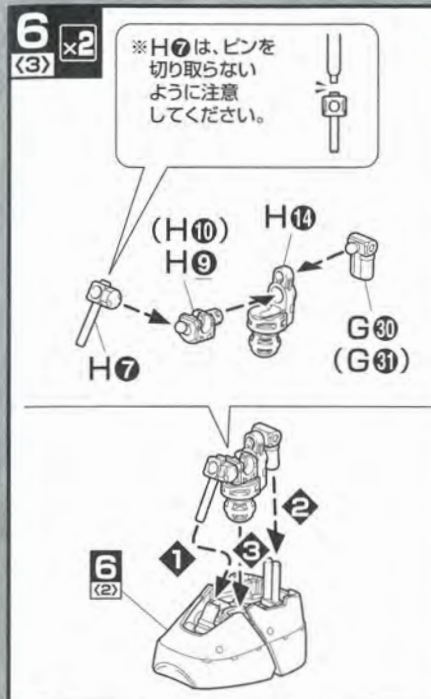
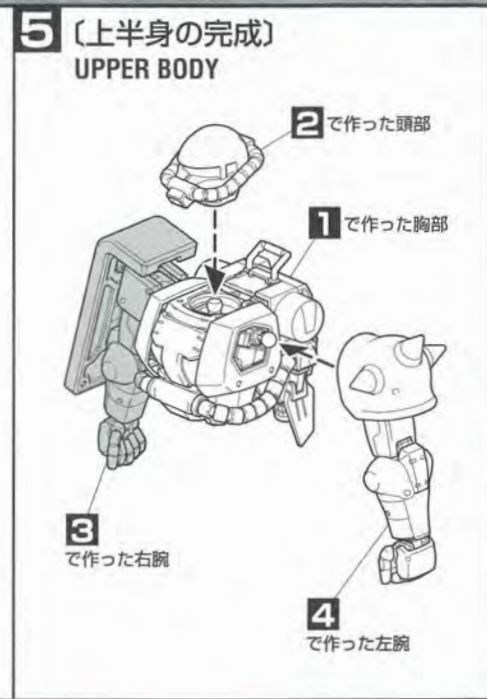
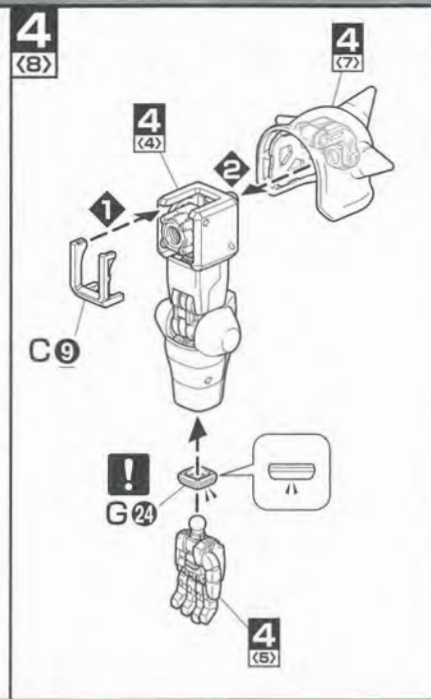
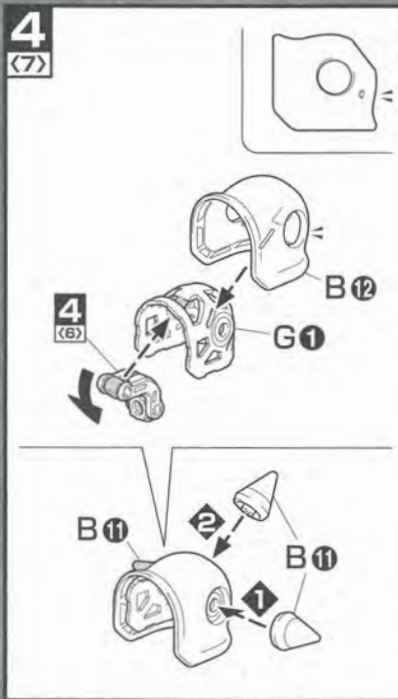


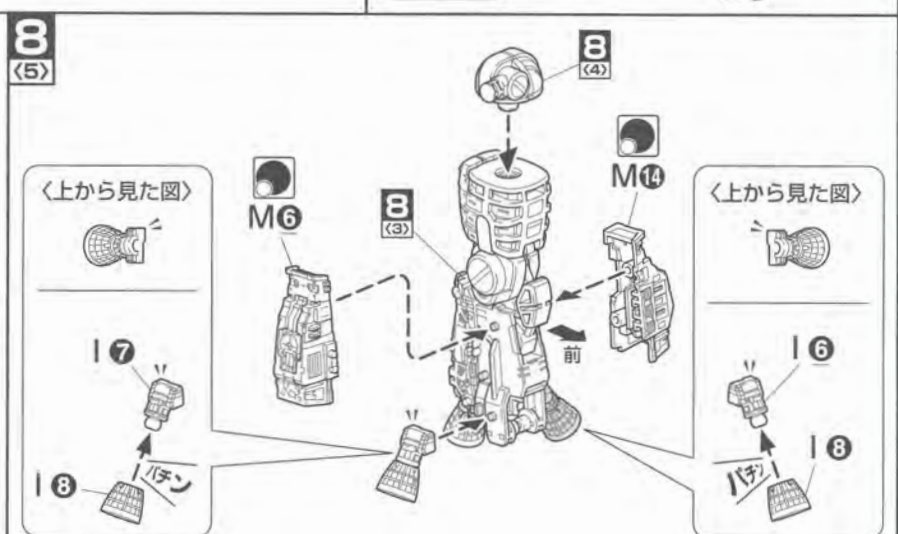
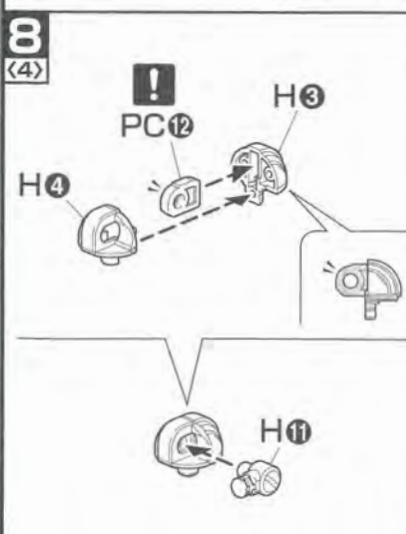
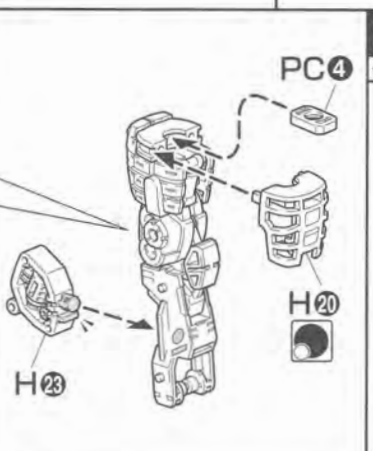
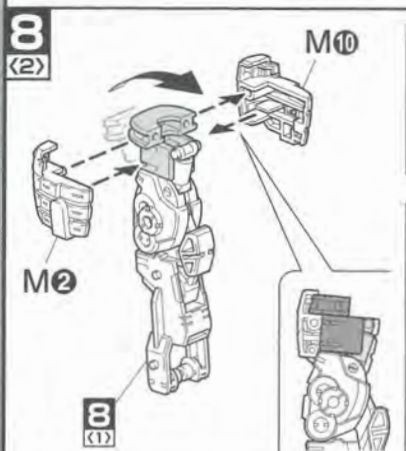
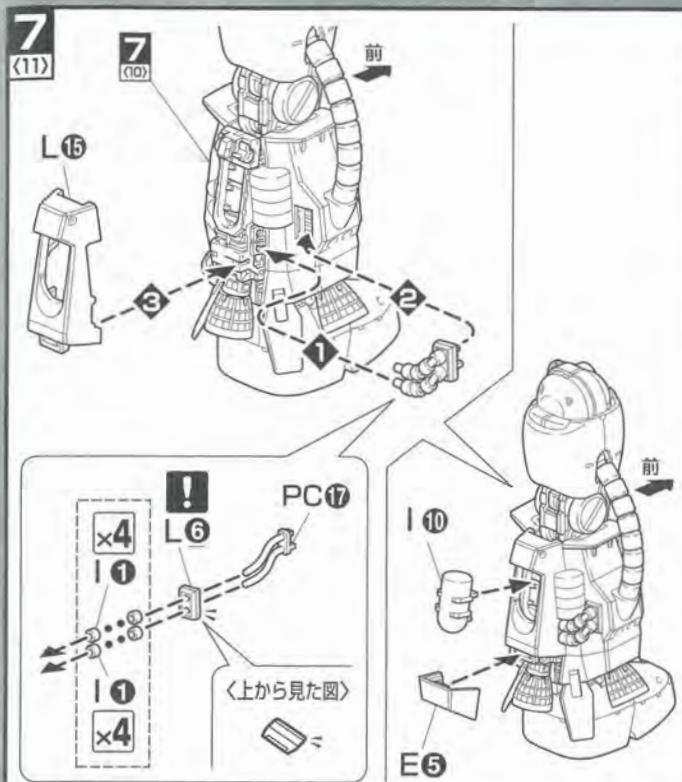
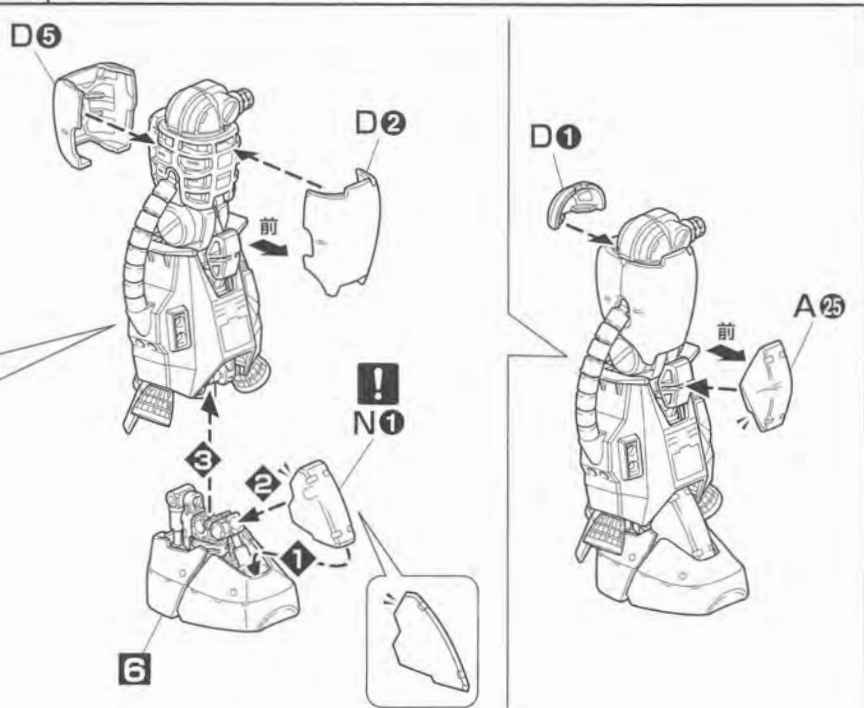
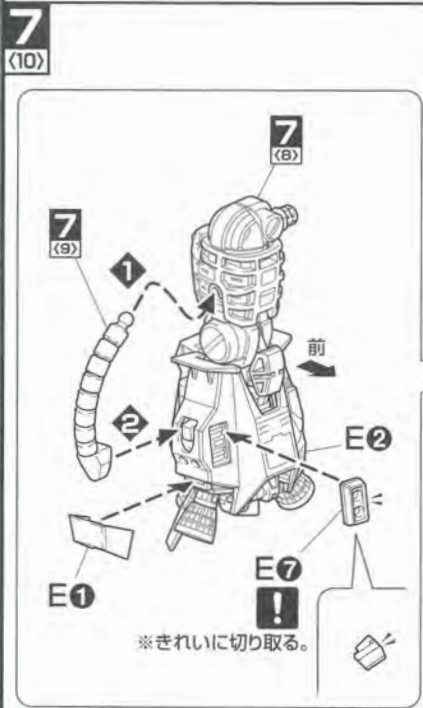
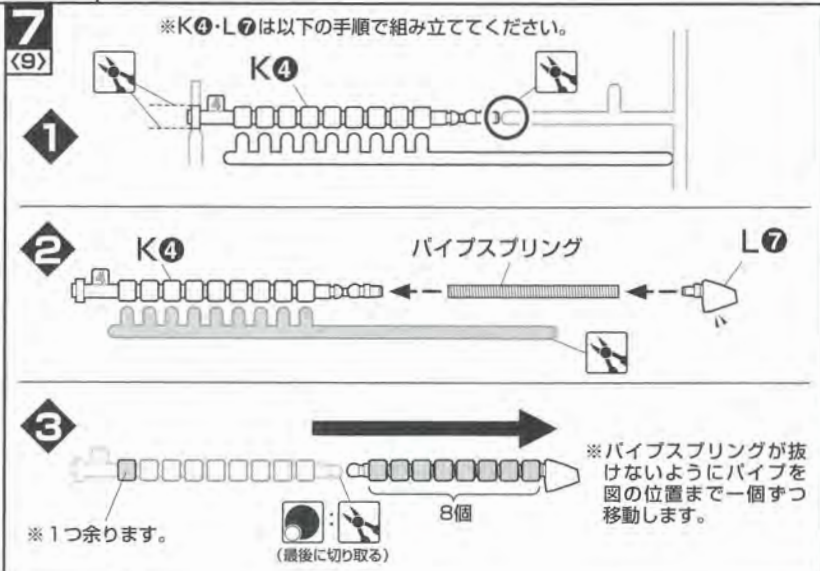
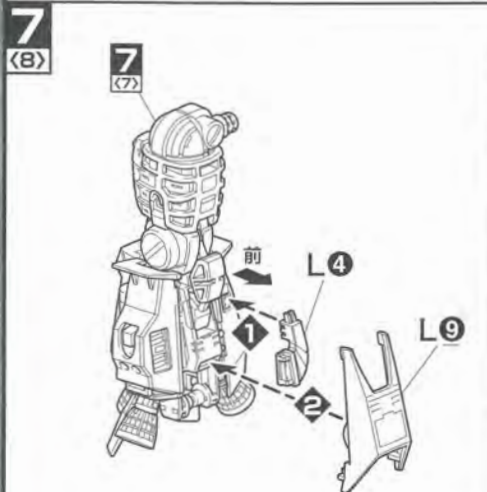
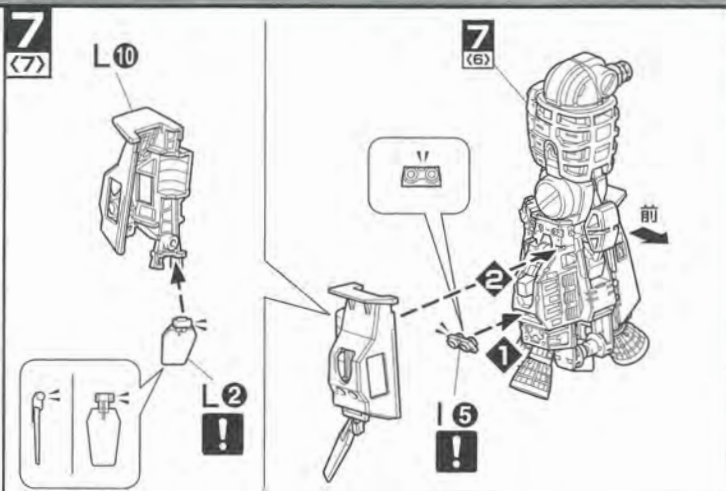
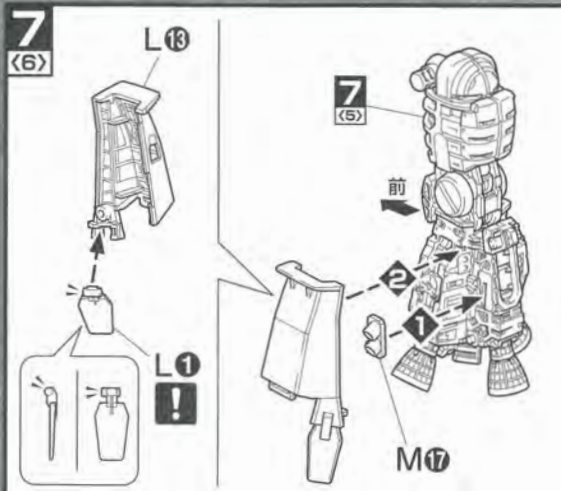
Weapons MS-06R-1A ZAKU II Armament

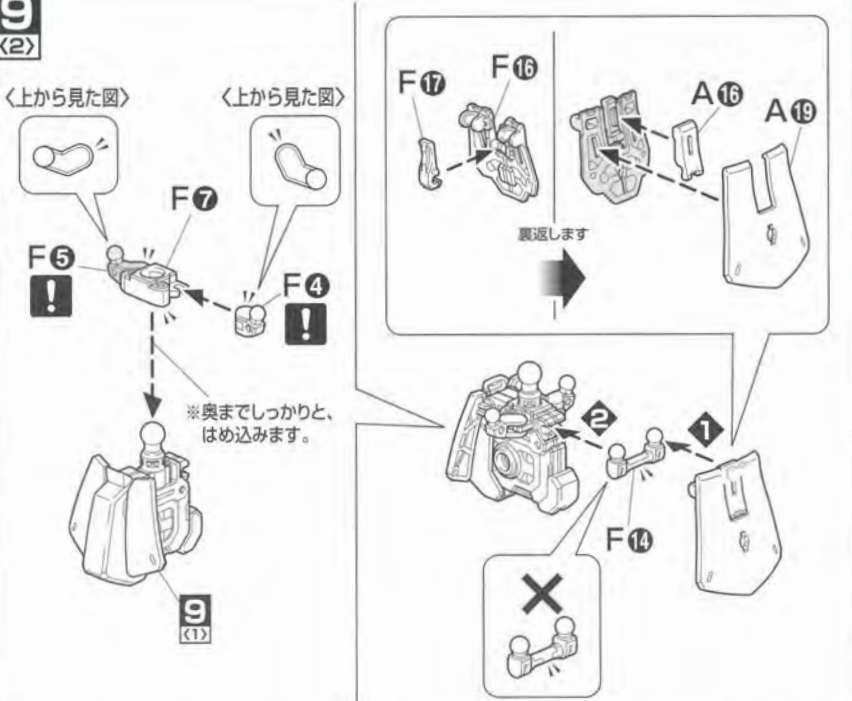
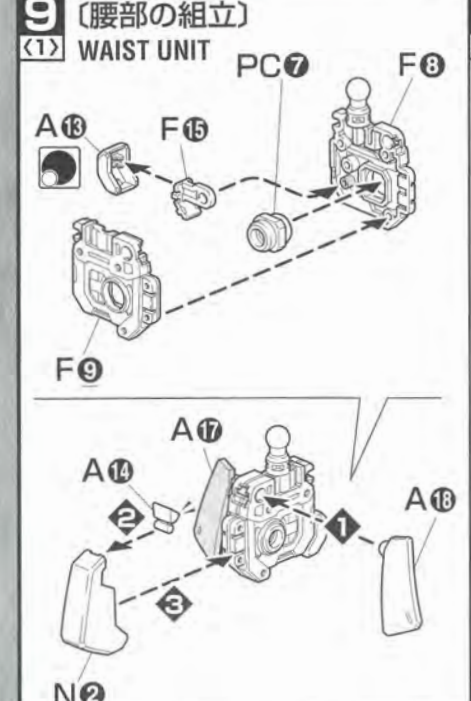
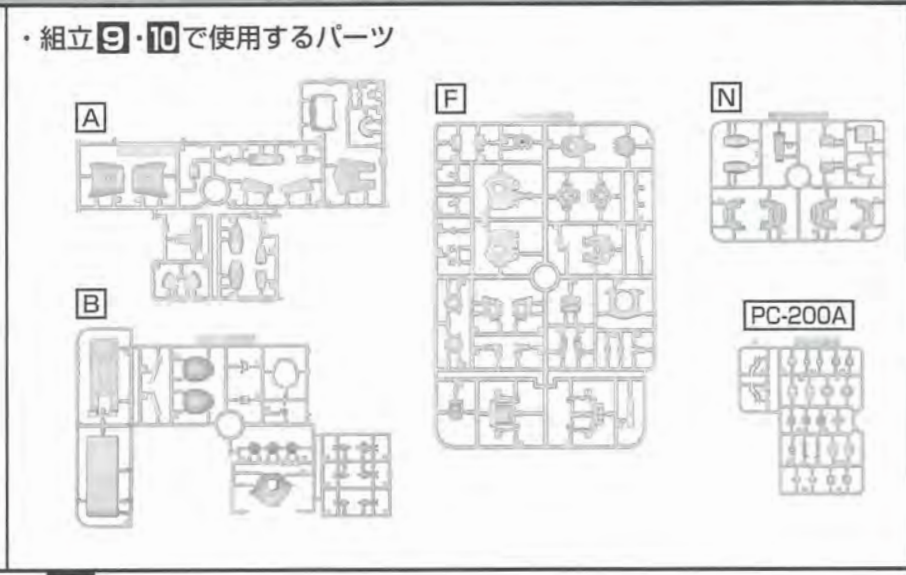
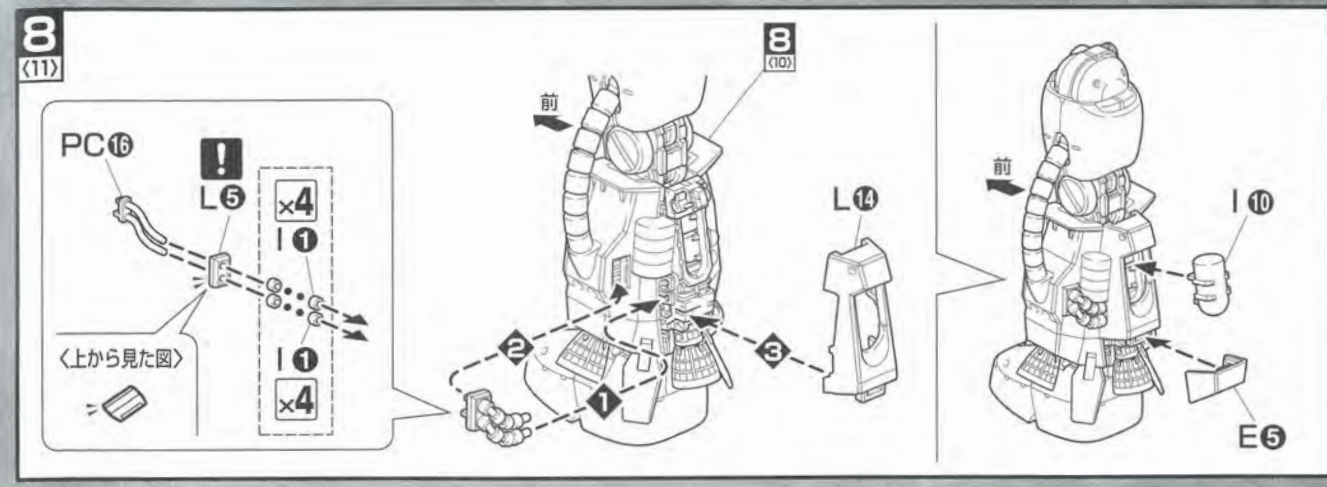
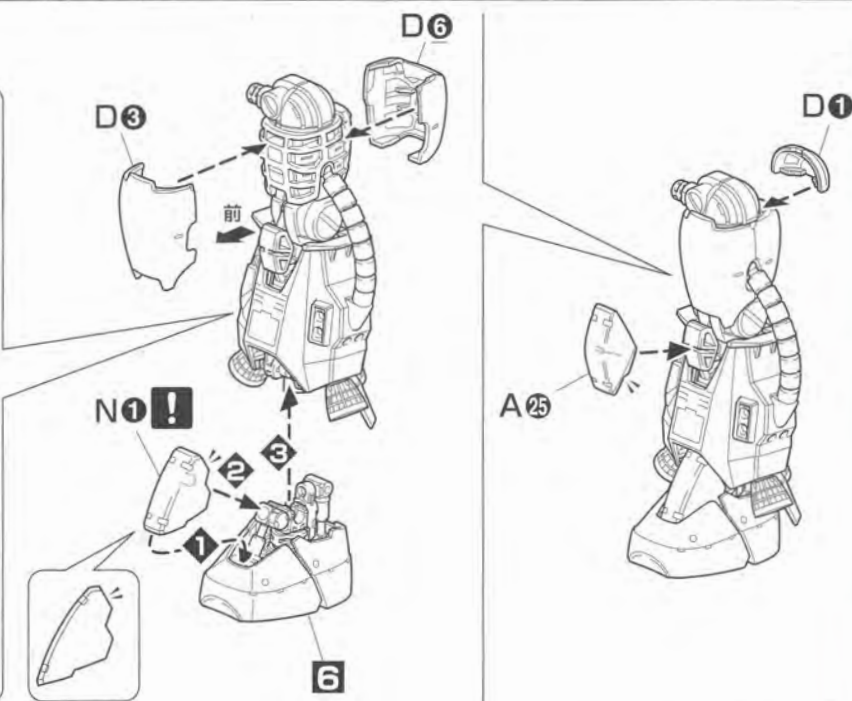
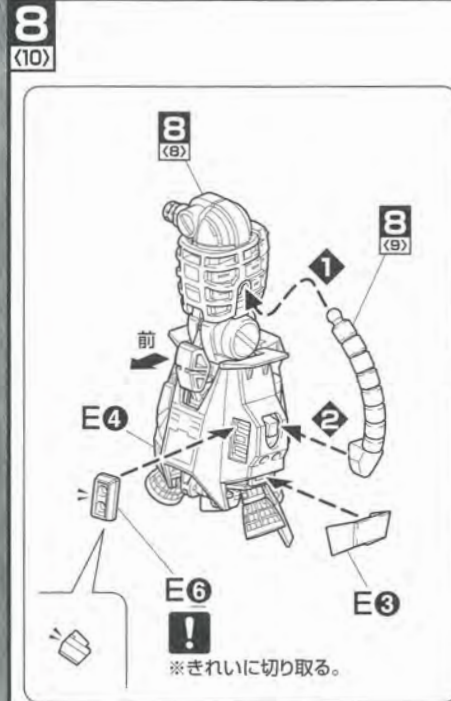
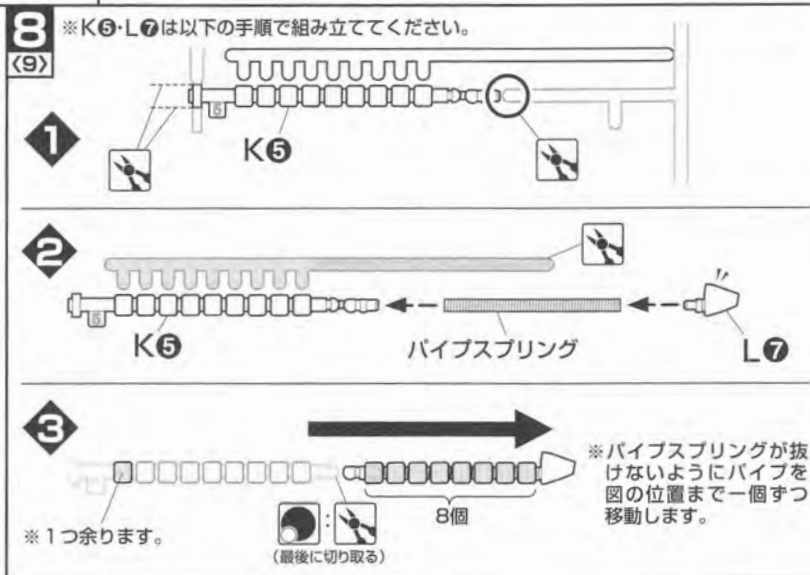
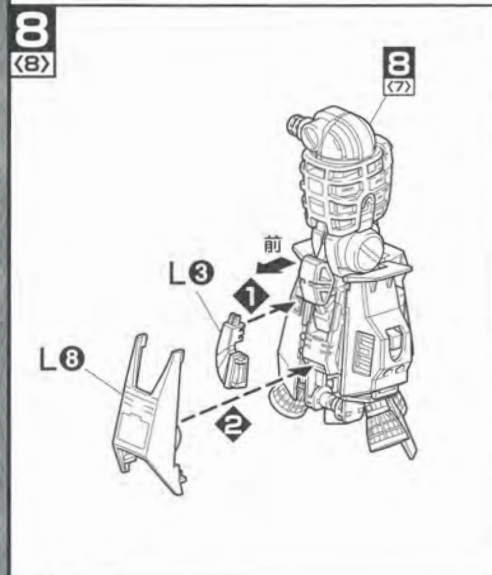
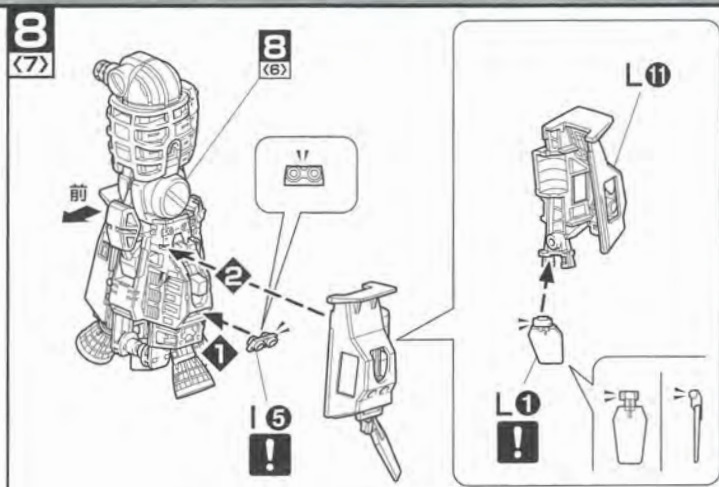
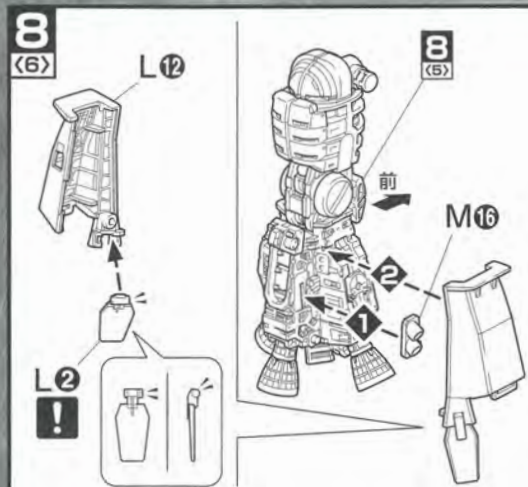


ヒート・ホークはサイドアーマーにマウントが可能。

ザク・マシンガンのマガジンはリアアーマーにマウントが可能。

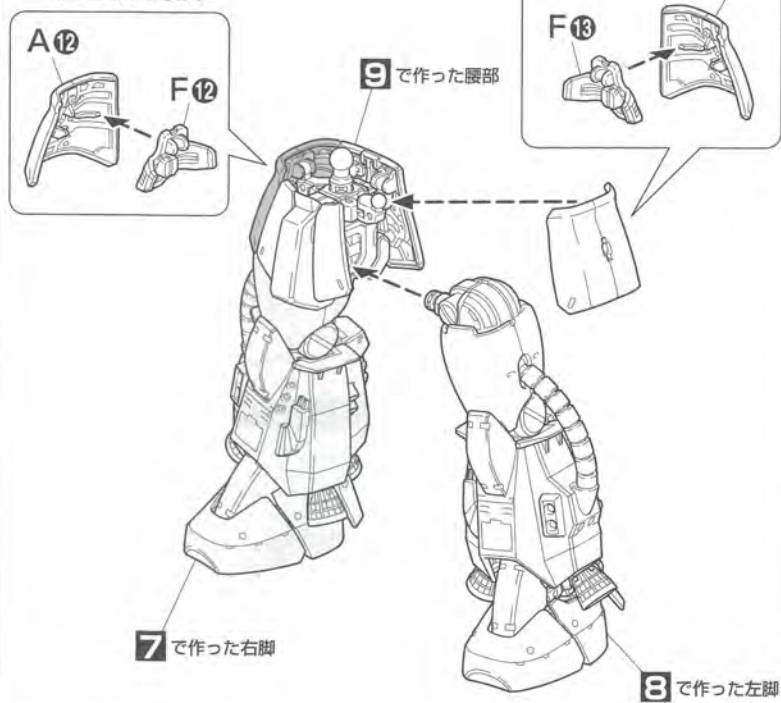




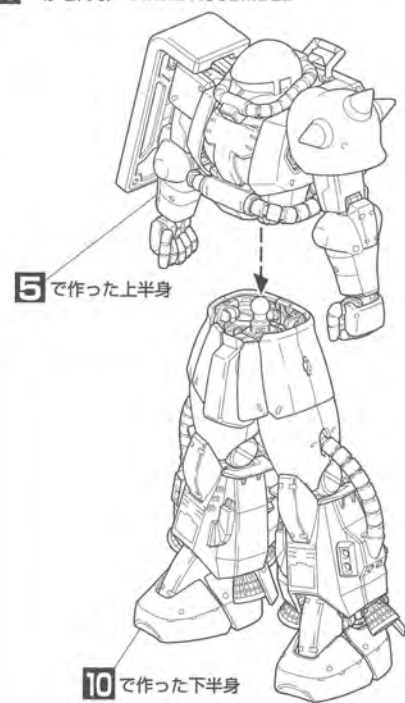


10 [下半身の組立]

LOWER BODY



11 [完成] FINAL ASSEMBLE



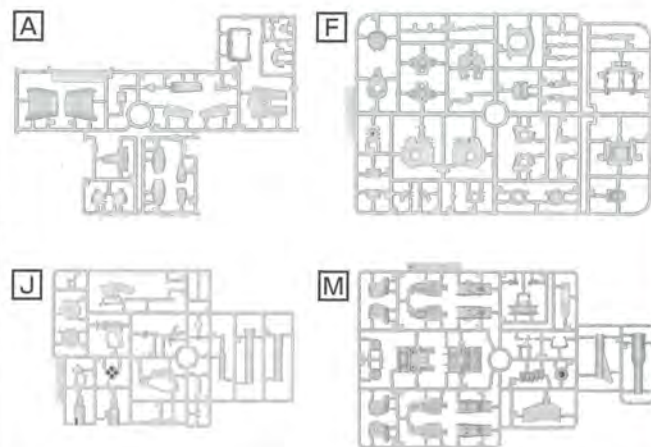
※B10・B17・B18は好みの場所に飾ってください。

12 13 14 15 16 WEAPONS



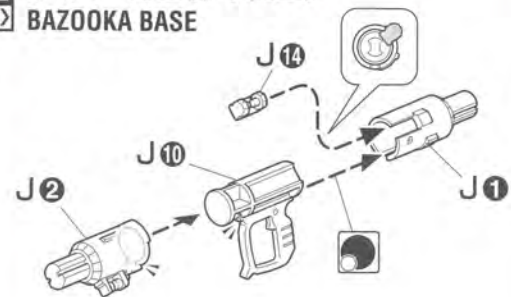
※ジャイアント・バズーカとザク・バズーカはコンバーチブルです。

・組立 12・13・14・15・16 で使用するパーツ

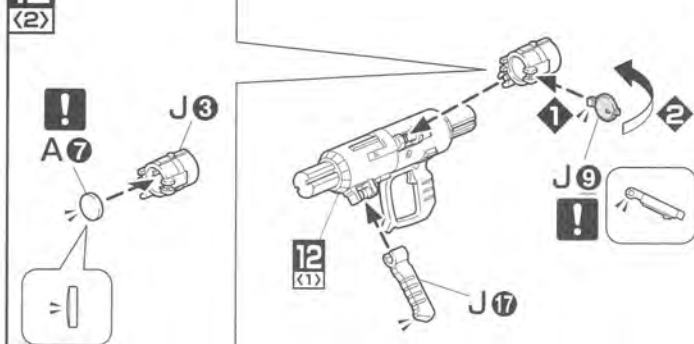


12 [バズーカ基部の組立]

(1) BAZOOKA BASE

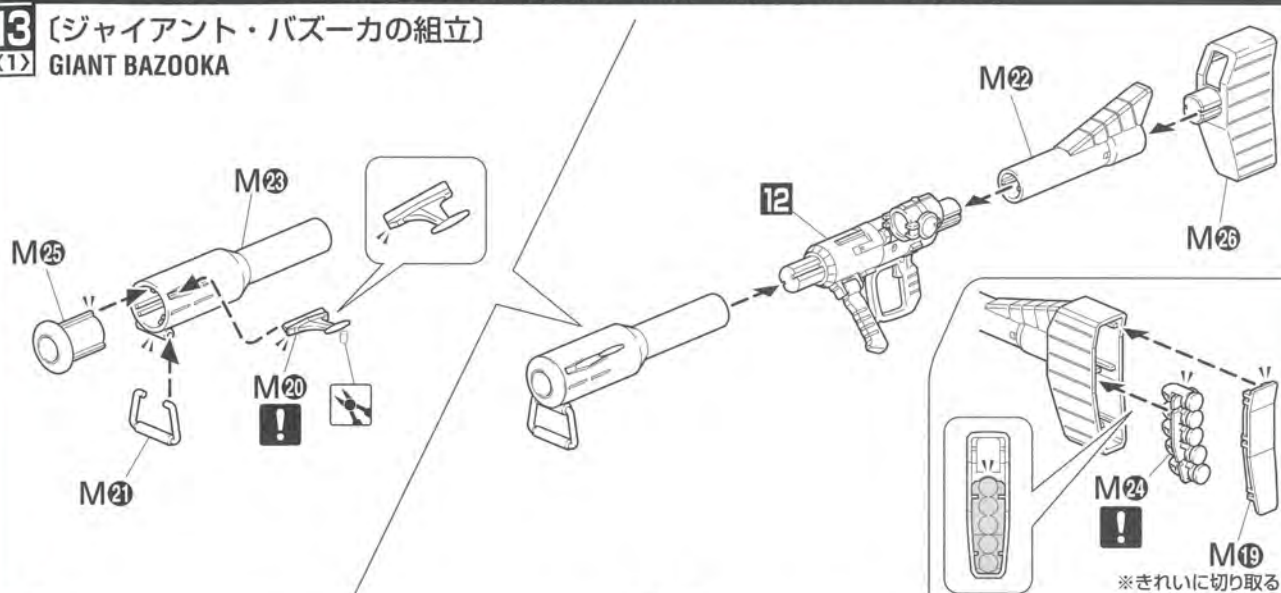


12 (2)

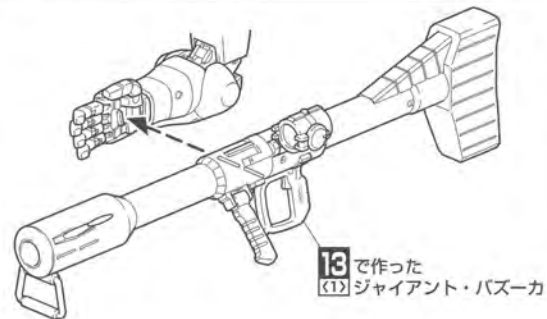


13 [ジャイアント・バズーカの組立]

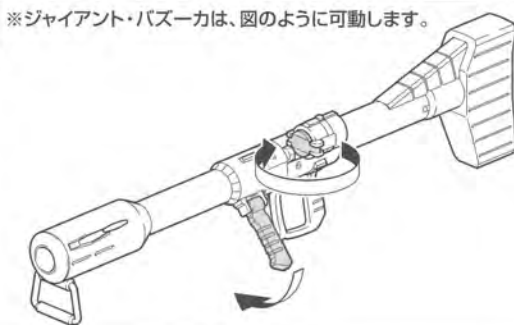
(1) GIANT BAZOOKA



13 (2)

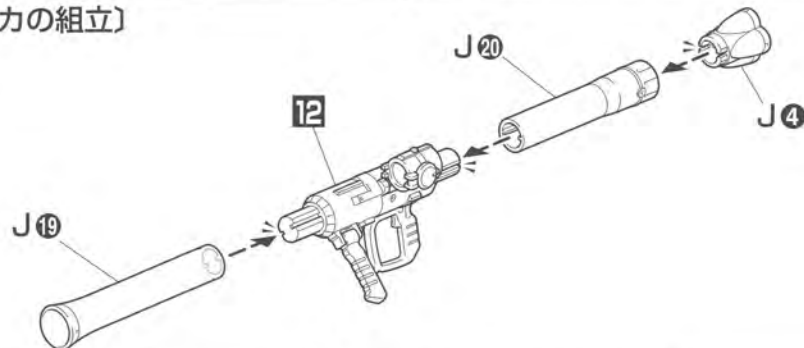


13 (3)



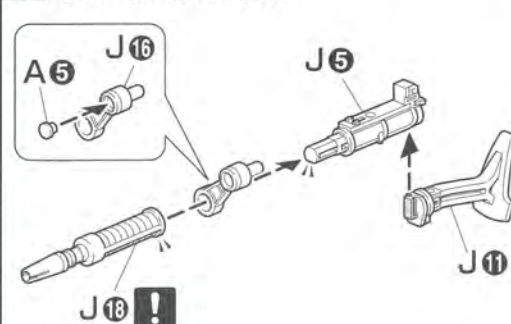
14 [ザク・バズーカの組立]

ZAKU BAZOOKA

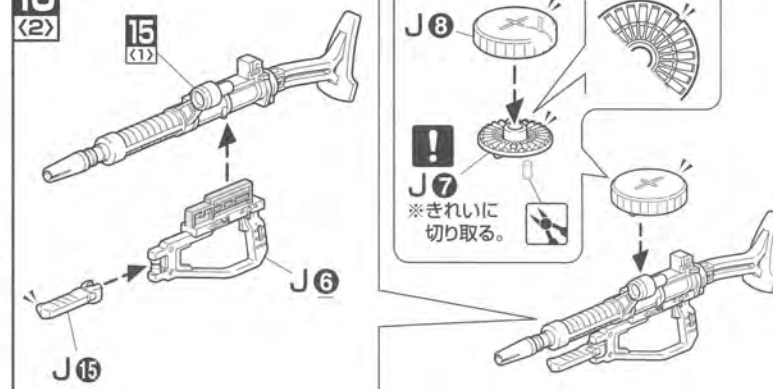


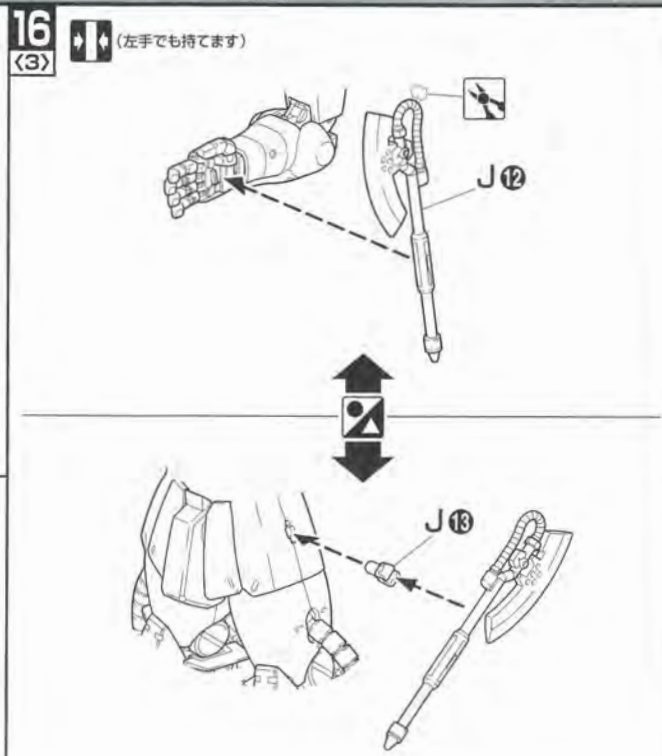
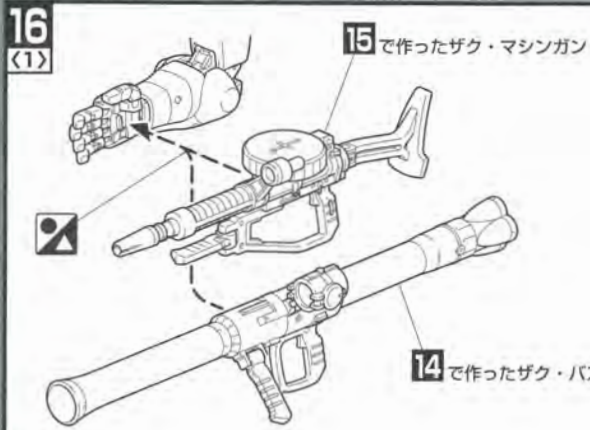
15 [ザク・マシンガンの組立]

(1) ZAKU MACHINE GUN

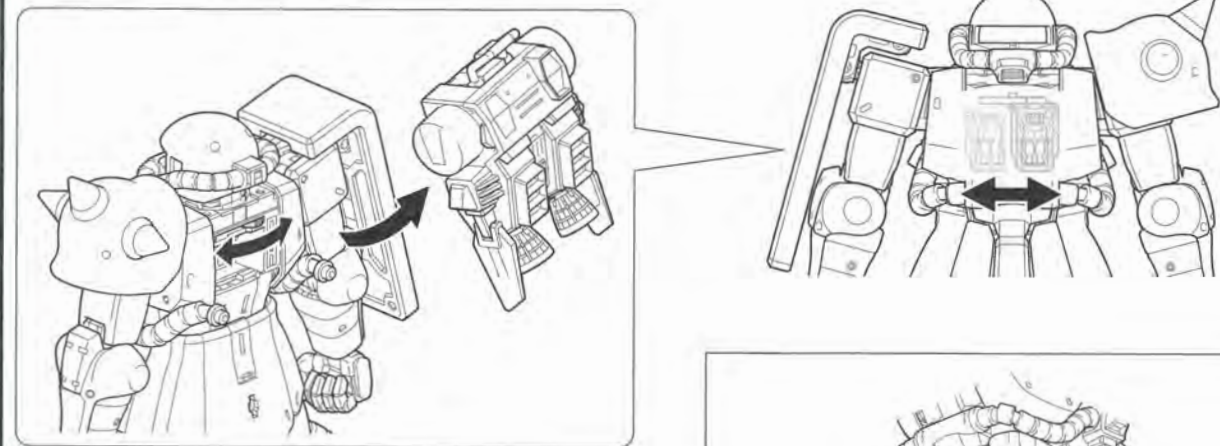


15 (2)

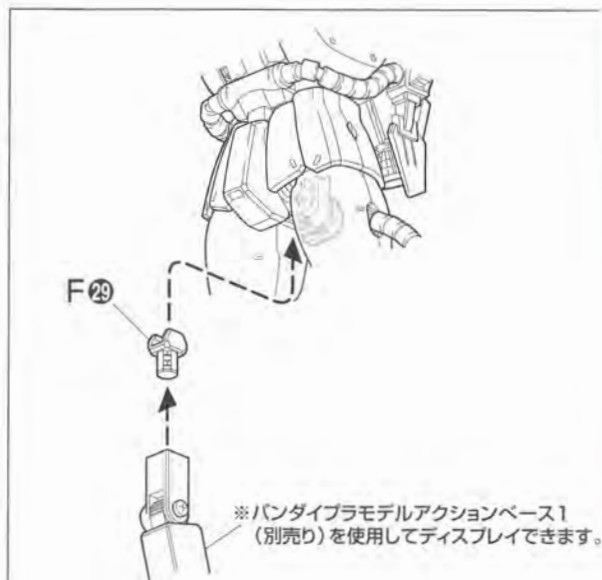
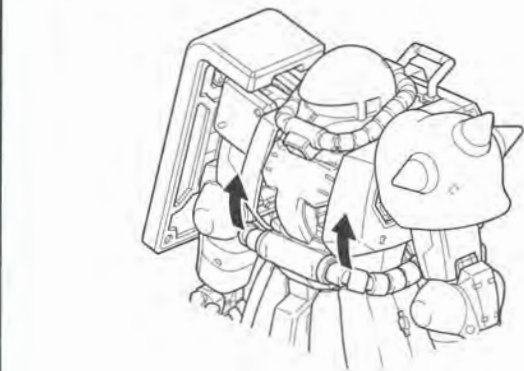




17 <コクピットの可動>



<コクピットハッチの開け方>



Seal

<シール> 下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。

マーキングシールは「ひらがなの黒文字」、ガンダムデカールは「数字の白文字」で表記してあります。

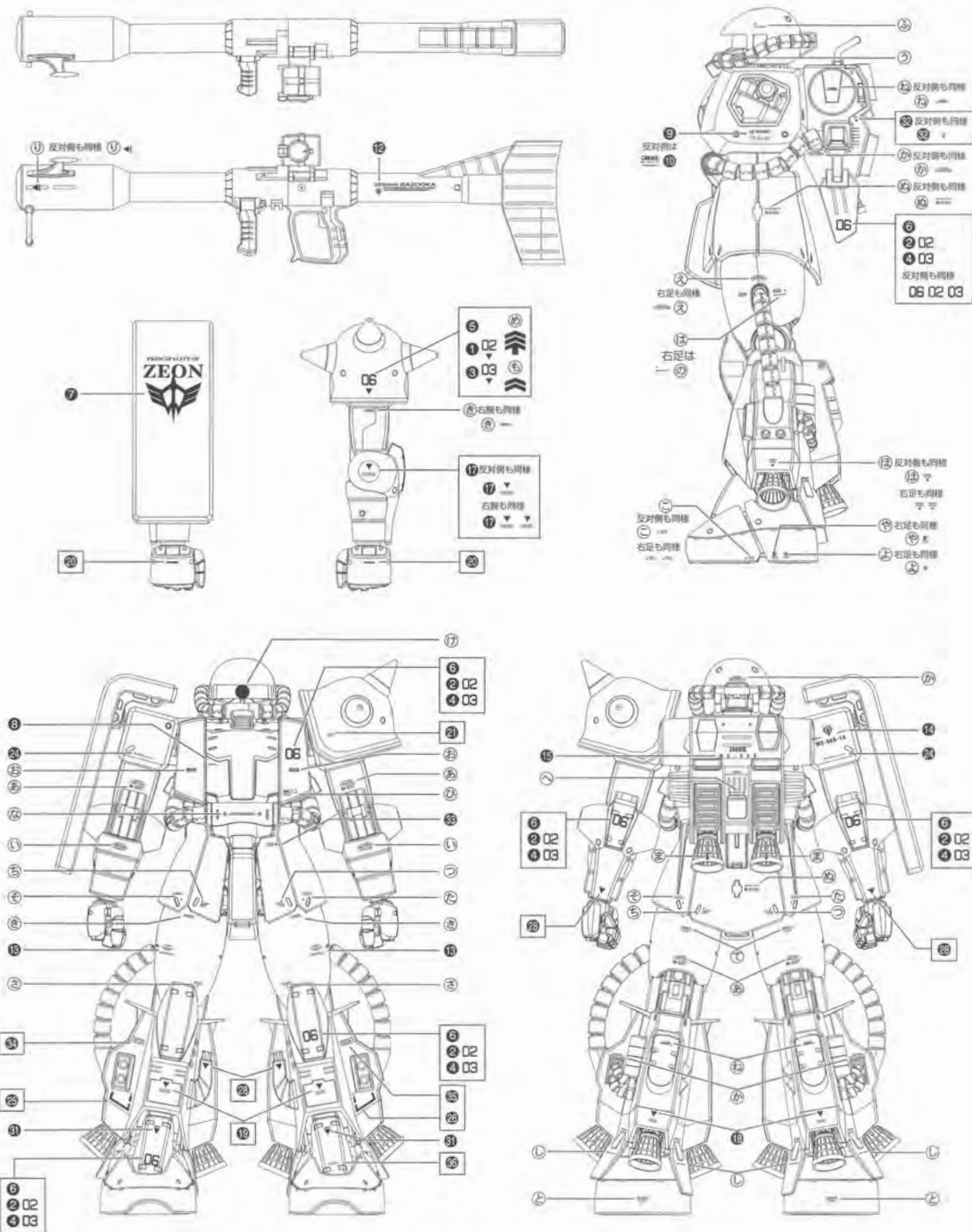
【例】㊸・・・マーキングシール ①・・・ガンダムデカール

□で囲んである番号をお貼りいただくと、MSV設定マーキングを再現することができます。

【ガンダムデカールの貼りかた】

- 1 転写するマークを大きめに切り取ります。
- 2 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
- 3 シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすりつけます。

このマーキングシール及びガンダムデカールはプラモデルオリジナルのもので、貼り指示は一例ですのでイメージに合わせてお貼りください。



※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。